

第38回  
医学情報サービス研究大会  
抄録集



**Learning from each other !**

2023.7.1(土)～7.2(日) オーテピア高知図書館

# 待ちよったで！ MIS38 高知大会 2023 へようこそ！

第38回医学情報サービス研究大会へご参加いただき、心から御礼申し上げます。

本大会は、2019年の福岡大会以来、4年ぶりの対面開催となります。その会を高知の地で初開催させていただけることを大変誇りに感じております。会いたい人に会えず、行きたいところにも行けない不自由を、私たちは経験しました。オンラインの便利さと、久しぶりに対面する昂りや初対面のドキドキ、両方を味わっていただけるよう、ハイブリッド開催としております。高知での初開催のうえ初の試みとなるため、予想されるトラブルには対応できるよう、準備を重ねて参りましたが、無事に開催できることを神に祈る心境です。

医学情報サービス研究大会は、“Learning from each other!”を旗印に、同じ生命科学関連領域に関わる情報サービス関係者同士が個人として集い、最新の知見を持ち寄り、お互い切磋琢磨しながら、学び合う、とてもユニークな大会です。本大会では、実践報告1題、特別講演1題、継続教育1題、口頭発表11題、ポスター発表5題、参加者企画3題、企業展示14社と充実したプログラムを組むことができました。また、懇親会では高知ならではの美味しい鰹のタタキや地酒を楽しんでいただけるようご用意しました。

会場となります「オーテピア」は、全国で初めての高知県立図書館と高知市民図書館本館の合築による『オーテピア高知図書館』、『オーテピア高知声と点字の図書館』、『高知みらい科学館』の3つの施設からなる複合施設です。館内ツアーではじっくりご案内します。

奇しくも2023年4月スタートの朝ドラ「らんまん」は高知県出身の植物学者、牧野富太郎がモデルとなっております。朝に昼に、高知県の美しい自然の映像がお茶の間に流れ、高知に行ってみたい！と思われた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

高知の自然や歴史、食などにも親しんでいただけましたら幸いです。そして、参加者の皆様にとって、出会いの花咲く実り多い大会になることを心から願っています。

第38回医学情報サービス研究大会実行委員会  
実行委員長 諏訪 有香



# 目次

実行委員長挨拶	1
会期中のお願い	3
会場へのアクセス	4
会場配置図	7
プログラム	8
タイムテーブル	13
懇親会のご案内	15
実行委員会企画：実践報告	
オーテピア高知図書館 健康・安心・防災情報サービスの取組について	17
実行委員会企画：特別講演	
公共図書館でなぜ健康情報サービスを提供するのか	19
実行委員会企画：継続教育	
大学・大学院での研究活動と文献検索の現場	23
口頭発表	
A	25
B	31
C	35
ポスターセッション	41
参加者企画	47
プロダクトエキシビション	51
参加企業連絡先	66
発表・企画運営要領	
口頭発表要領	68
ポスター発表要領	69
企画運営要領	70
企業展示要領	71
プロダクトレビュー発表要領	74
Learning from each other! 医学情報サービス研究大会をより充実させるために	76
実行委員からの挨拶	81
ロゴマークについて	83
大会グッズのご紹介	84
ランチマップ	85
大会関連データ	87
医学情報サービス研究大会の組織と運営	88
医学情報サービス研究会会則	89
医学情報サービス研究大会の足跡	90
第39回医学情報サービス研究大会のご案内	92
大会主催のお願い	93

# 会期中のお願い

## ■基本情報

### 1. 名札

大会参加期間中（懇親会を含む）は、必ず名札をご着用ください。使用後の名札は記念にお持ち帰りください。

### 2. 役割表示

大会参加者のうち、実行委員は赤色、協力委員はピンク、登壇者は黄色、モデレーター・タイムキーパーは紫色、企業関係者は緑色、一般参加者は青色の名札を着用いただいています。参加者どうしの交流や実行委員へのご照会の際にお役立てください。

### 3. 飲食・ご歓談

昼食は4階ホール、研修室、M5学習・研究室をご利用ください。（p.7の会場配置図を参照してください）。

### 4. 会場の美化、ゴミの処理

会場の美化にご協力をお願いいたします。ゴミは会場内設置ゴミ箱に廃棄するようお願いいたします。

### 5. 参加証明

受付にご用意しています。必要な方は一人1枚ずつお受け取りください

### 6. アンケート

次大会の参考といたしますので、ぜひご協力ください。回収箱は受付にあります。大会終了後、公式サイトから回答いただくことも可能です。

## ■禁止・制限事項

### 1. 会場および敷地内での喫煙

### 2. 録音・撮影・音の出る行為

会場での携帯電話での通話、その他機器による撮影、録音等をご遠慮ください。

## ■必ずご確認ください

1. 貴重品は各自で管理してください。実行委員会では責任を負いかねます。大きな荷物はクロークにお預けください。

2. 非常口ならびに避難経路はご自身の目でお確かめください。



# 会場へのアクセス

## (ア) オーテピア周辺路線バスのバス停と電停からのアクセスマップ

バス停(大橋通、堀詰、帯屋町、追手筋)、路面電車の電停(大橋通、堀詰)からのアクセス

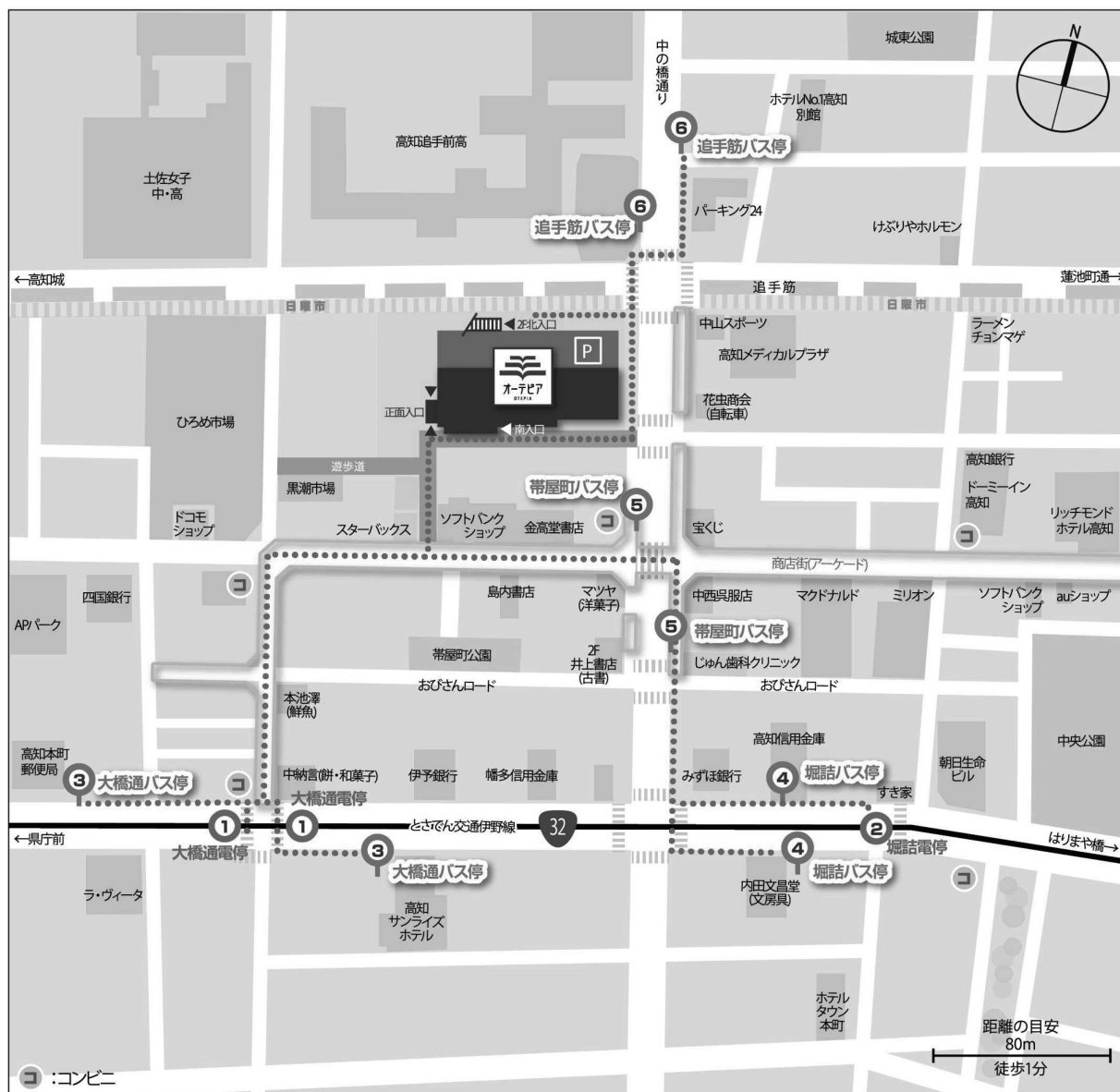
- ① おおほしどおり 大橋通電停から **オーテピア正面入口まで 徒歩3分**
- ② ほりづめ 堀詰電停から **オーテピア正面入口まで 徒歩5分**
- ③ おおほしどおり 大橋通バス停から **オーテピア正面入口まで 徒歩3分**
- ④ ほりづめ 堀詰バス停から **オーテピア正面入口まで 徒歩5分**
- ⑤ おびやまち 帯屋町バス停から **オーテピア正面入口まで 徒歩2分**
- ⑥ おおてすじ 追手筋バス停から **オーテピア正面入口まで 徒歩2分**

雨の日のおすすめは、①・③の大橋通電停・バス停または⑤の帯屋町バス停からの来館ルートです。



とさでん交通

<http://www.tosaden.co.jp>



\*人が歩く道を記載しています。車は通行できない道もありますので、必ず現地の交通規制に従ってください。

2022.7 改訂



# (イ) 高知駅及び空港連絡バス・高速バスのバス停アクセスマップ

バス停(高知駅～はりまや橋の間)から オーテピアまでのアクセス

## JR

- ・「高知駅」下車 徒歩 約20分 または 路面電車で 約15分  
 (「高知駅前」電停で乗車し約5分、「はりまや橋」電停で下車。  
 同電停の「鏡川橋」、「朝倉」、「いの」、「杣形」行きの電車に乗り換え、「大橋通」下車 徒歩 約3分)

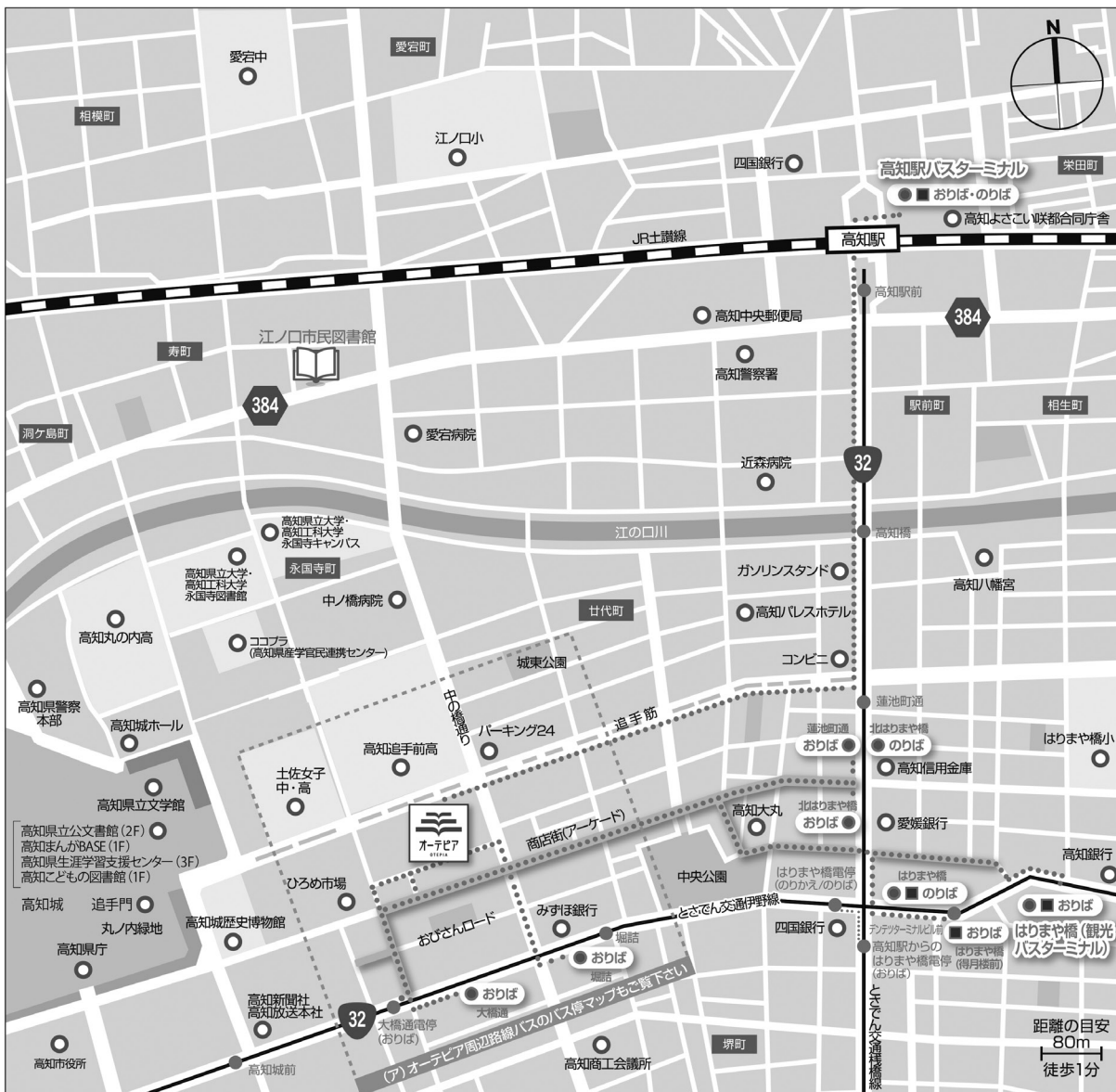
## 空港連絡バス(高知龍馬空港～JR高知駅/県庁前行き)

- ① JR高知駅行きの場合(東部自動車道経由 約22～23分)
  - ・「はりまや橋(観光バスターミナル)」下車 徒歩 約15分
  - ・「北はりまや橋」または「蓮池町通」下車 徒歩 約10分
  - ※とさでん交通、高知駅前観光の2社が運行しています。
- ② 県庁前行きの場合(東部自動車道経由 約23分)
  - ・「大橋通」または「堀詰」下車 徒歩 約5分
  - ※とさでん交通が運行しています。

## 高速バス

- ・「はりまや橋(観光バスターミナル)」下車 徒歩 約15分
- ・「はりまや橋(得月楼前)」下車 徒歩 約15分

● 空港連絡バス  
 ■ 高速バス



\*人が歩く道を記載しています。車は通行できない道もありますので、必ず現地の交通規制に従ってください。

2020.6 改訂



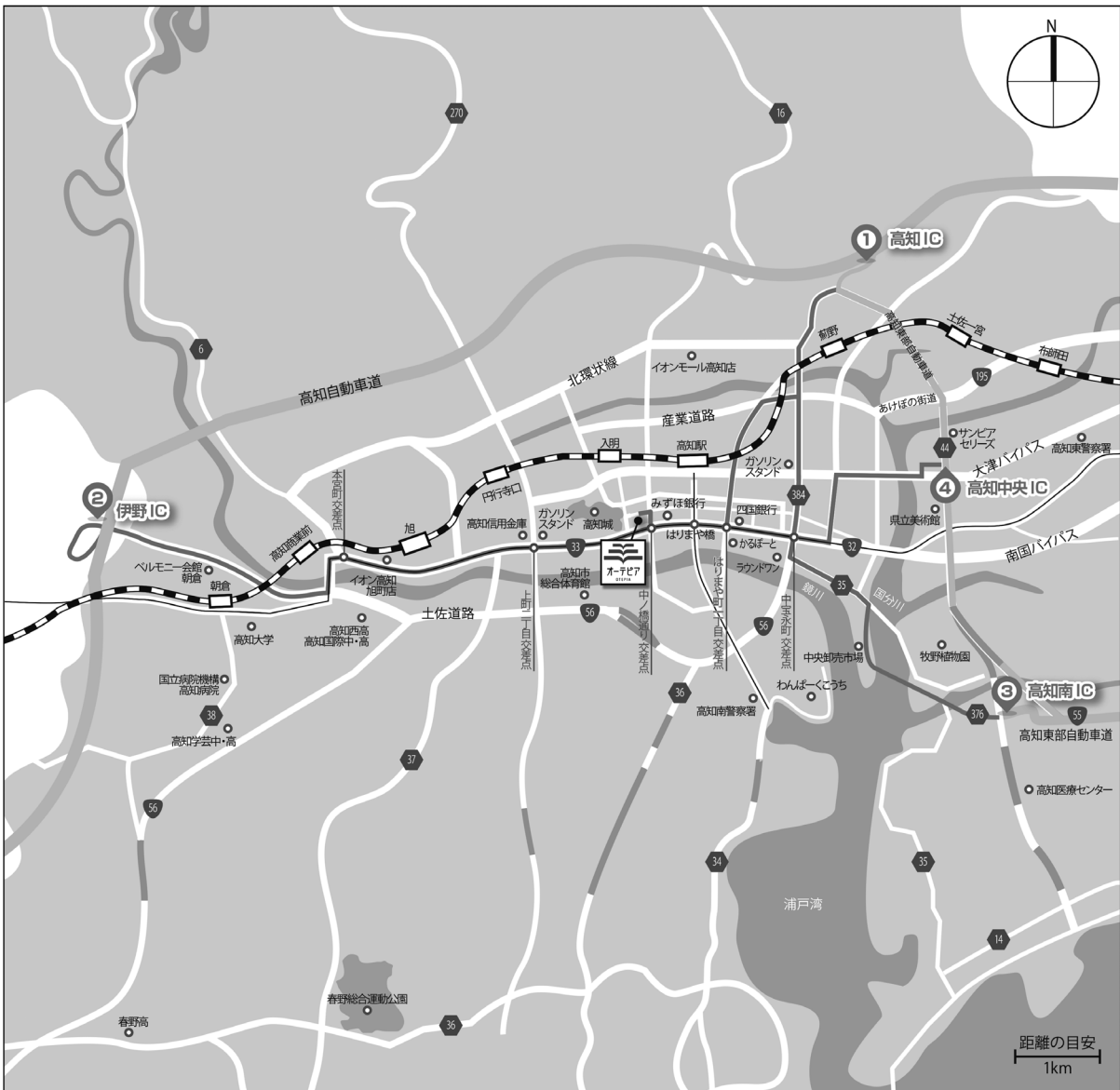
## (ウ) インターチェンジからオーテピアまでの車でのアクセスマップ

- ① 高知自動車道 高知ICから 車で約15分
- ② 高知自動車道 伊野ICから 車で約17分
- ③ 高知東部自動車道 高知南ICから 車で約15分
- ④ 高知東部自動車道 高知中央ICから 車で約13分

※オーテピアの専用駐車場(有料)は、駐車台数に限りがあります。周辺の有料駐車場もご利用ください。

※行楽シーズンはオーテピア周辺の道路が混雑することがあります。

※日曜日は追手筋で日曜市が開催されるため、オーテピア周辺の道路が混雑することがあります。



2022.7 改訂



# プログラム

【第1日目】2023年7月1日（土）

- 11:00～12:00 受付
- 12:00～12:05 オリエンテーション
- 12:05～12:20 開会式・幹事会報告
- 12:20～12:50 実践報告  
「課題解決先進県」における図書館  
ー健康・安心・防災情報サービスの取組についてー  
森澤 奈那（オーテピア高知図書館）
- 12:50～13:50 特別講演  
公共図書館でなぜ健康情報サービスを提供するのか  
山重 壮一（香美市立図書館）
- 14:00～15:20 口頭発表 A（O-01～04）
- O-01 教科書に記述された保健衛生**  
ー戦前の高等女学校家事教科書の場合ー  
菅 修一（花園大学文学部図書館司書資格課程）
- O-02 東邦大学医学メディアセンターにおける著作権ヘルプデスクの取り組み**  
大谷 裕，黛 崇仁（東邦大学医学メディアセンター）
- O-03 奈良県立医科大学附属図書館における感染症・抗菌薬関係図書の現状と選書について**  
島田 祐衣（奈良県立医科大学附属図書館）
- O-04 図書館における学習支援**  
ーステップ学習の紹介ー  
山崎 裕司，依光 朋子，古田 絵理（高知リハビリテーション専門職大学図書館）
- 15:30～16:20 プロダクトレビュー A [E-01～07]
- 16:20～16:50 ポスターセッション待機時間



16:50～17:50 口頭発表 B (O-05～07)

**O-05 医療系学部初年次多職種連携実習における地域公共図書館との連携  
－2年目の事例報告－**

柿崎 真沙子 (名古屋市立大学),  
田中 里枝子, 福田 光輝 (名古屋市鶴舞中央図書館),  
藤坂 康司, 脇田 妙子 (名古屋市志段味図書館),  
和田 彩子 (名古屋市鶴舞中央図書館), 高桑 修 (名古屋市立大学)

**O-06 解剖学資料の曙**

**－メメント・モリ芸術と解剖学的表現主義という視点－**  
石坂 (伊澤) 和夏 (NPO 法人大学図書館支援機構)

**O-07 「がんを身近に考える」巡回図書展示の成果と課題**

須賀 千絵 (実践女子大学), 池谷 のぞみ (慶應義塾大学),  
岡本 裕樹, 八巻 知香子 (国立がん研究センターがん対策研究所),  
張心言 (慶應義塾大学大学院・国立がん研究センターがん対策研究所),  
山下 ユミ (京都府立図書館・慶應義塾大学大学院)

17:50～18:00 事務連絡

18:30～20:30 懇親会

**【第2日目】2023年7月2日(日)**

9:00～9:20 受付 (2日目からの参加者のみ)

9:20～10:30 継続教育

**大学・大学院での研究活動と文献検索の現場**

諏訪 敏幸 (大阪大学, 国立成育医療研究センター)

10:30～11:00 ポスターセッション待機時間

11:00～11:50 プロダクトレビュー B [E-08～13]

12:50～14:20 参加者企画

**F-01 米国国立医学図書館 (NLM) の研修を受講してみよう!**

企画提案者: 山下 ユミ (京都府立図書館 / 慶應義塾大学大学院)

**F-02 文章生成 AI のもたらす学術情報等への影響について**

**－何ができる? どう活かす? 一緒に考えてみませんか－**

企画提案者: 橋本 郷史 (東邦大学医学メディアセンター大橋病院図書室)

**F-03 メディアドクター・ワークショップ**

「プレスリリース」と「報道記事」の読み比べ

ーがん治療の副作用をどう伝えるかー

企画提案者：メディアドクター研究会

佐藤 正恵（千葉県済生会習志野病院），

北澤 京子（京都薬科大学），渡邊 清高（帝京大学医学部内科学講座腫瘍内科）

14:30～15:50 口頭発表 C（O-08～11）

**O-08 国内医学分野における会議録の入手可能性について**

ー横断的観察研究ー

村上 陽菜（一般財団法人 日本医薬情報センター附属図書館）

**O-09 日本発のシステマティックレビューにおける文献検索を評価するためのパイロット調査**

小嶋 智美（Independent Librarian・立命館大学 科学技術研究機構

医療経済評価・意思決定支援ユニット），

眞喜志 まり（東邦大学 習志野メディアセンター）

**O-10 国内医学部における学内刊行誌・紀要誌の計量的分析**

ー国際誌を志向する Web of Science Core Collection 収載誌を対象としてー

城山 泰彦（順天堂大学 本郷・お茶の水キャンパス学術メディアセンター）

**O-11 2011～2022年国内誌における医学文献生産動向**

児玉 閔（大妻女子大学 教職総合支援センター）

15:50～16:20 事務連絡，集合写真撮影，閉会式

**施設見学（希望者のみ）**

【第1日目】2023年7月1日（土）

9:30～11:00 オープン見学ツアー（解説入り・希望者のみ）

11:00～18:00 オープン（時間内常時見学可）

【第2日目】2023年7月2日（日）

9:00～16:20 オープン（時間内常時見学可）

16:20～17:50 オープン見学ツアー（解説入り・希望者のみ）

## 【両日共通】

### ポスターセッション

- P-01 PubMedにおけるCOVID-19撤回論文に関する検索結果の違い**  
井上 陽路（東京慈恵会医科大学学術情報センター図書館）
- P-02 MLA メーリングリスト求人にみるヘルスサイエンス系図書館員の役割変化**  
藤原 純子（加古川中央市民病院），柳生 奈美（放送大学）
- P-03 オーテピアにおける点字図書館・公共図書館の連携について**  
伊藤 嘉高（オーテピア高知声と点字の図書館）
- P-04 高齢者のヘルスリテラシーを向上する教材開発**  
三輪 眞木子（放送大学），佐藤 正恵（千葉県済生会習志野病院），  
山下 ユミ（京都府立図書館），磯部 ゆき江（二松学舎大学），  
阿部 由美子（放送大学）
- P-05 病院図書室の目録業務についての考察**  
－ NACSIS-CAT 図書書誌データ作成件数を中心に－  
下山 朋幸（国立精神・神経医療研究センター図書館）

## プロダクトエキシビジョン

### 展示+プロダクトレビュー（発表順）

- E-01 株式会社サンメディア
- E-02 株式会社メテオ
- E-03 iJapan 株式会社 /iGroup Japan
- E-04 NPO 医学中央雑誌刊行会
- E-05 株式会社医学書院
- E-06 ユサコ株式会社
- E-07 Thieme Group（オンライン）
- E-08 株式会社タック・ポート
- E-09 株式会社紀伊國屋書店
- E-10 株式会社ブレインテック
- E-11 EBSCO Information Services Japan 株式会社
- E-12 日本事務器株式会社
- E-13 丸善雄松堂株式会社（オンライン）

### 展示のみ

- E-14 株式会社カーリル

第1日目 2023年7月1日(土)

タイムテーブル

	ホール		研修室		MS学習・研究室 参加者企画3	集会室		声と点字の図書館 会議室	施設見学/懇親会	オンライン
	メイン会場	中継会場	MS学習・研究室 参加者企画3	ポスターセッション		企業展示				
9:00										
10:00									9:30~11:00 施設見学/懇親会 オーデリア着初回書籍 見学ツアー(希望者のみ)	
11:00										
12:00										
										12:00 閉会式等 12:20~12:50 会議報告
13:00										12:50~13:50 特別講演
14:00										
										14:00~15:20 口頭発表A(4題)
15:00										
										※時間内常時見学可
16:00										
										15:30~16:20 プロダクトレビューA (7社)
17:00										
										16:50~17:50 口頭発表B(3題)
18:00										
										17:50~18:00 事務連絡
19:00										
20:00									18:30~20:30 懇親会	



# タイムテーブル

第2日目 2023年7月2日(日)

	ホール	研修室	M5学習・研究室	集会室		声と点字の図書館 会議室	施設見学/懇親会	オンライン
				ポスターセッション	企業展示			
9:00	メイン会場 9:00~9:20 受付	中継会場 9:20~10:30 継続教育	参加者企画3	ポスターセッション	企業展示			オンライン
11:00	プロダクトレビューB (6社) 11:00~11:50	プロダクトレビューB (6社) 11:00~11:50	参加者企画3	ポスターセッション	企業展示			11:00~11:50 プロダクトレビューB (6社)
13:00	参加者企画2 12:50~14:20 文章生成AIの応用と学習情報への 影響について	参加者企画3 12:50~14:20 米国国立医学図書館の研修を ご紹介します！	参加者企画3 12:50~14:20 メデアイアドクター研究会 ワークショップ	ポスターセッション	企業展示			12:50~14:20 参加者企画3
15:00	14:30~15:50 口頭発表C(4種)	14:30~15:50 口頭発表C(4種)						14:30~15:50 口頭発表C(4種)
17:00								16:20~17:50 オーデビア高和図書館 見学ツアー (希望者のみ)
18:00								※時間内常時見学可



## 懇親会のご案内

MIS38 高知大会では、大会1日目（7月1日）のプログラム終了後  
18時30分より懇親会を開催いたします。

懇親会会場は、オーテピアから徒歩3分ほどの海鮮料理「海ぼうず」です。  
高知ならではの酒と魚でおもてなしいたしますので是非ご参加下さい。  
なお、当日受付はできかねますので、あらかじめお申込みをお願いいたします。

開催日時；令和5年7月1日（土）18時30分～20時30分

懇親会会場；海鮮料理 海ぼうず

高知市追手筋1丁目10-19（0120-238-205）

※喫煙ルームもあります。



MEMO

実行委員会企画  
実践報告

# 「課題解決先進県」における図書館

## －健康・安心・防災情報サービスの取組について－

森澤 奈那

オーテピア高知図書館

オーテピア高知図書館は、全国初となる県市合築による図書館で、高知県立図書館と高知市立市民図書館本館がそれぞれの機能と役割を果たしながら共同運営している。

高知県は、全国に先行して高齢化は10年、人口減少は15年進んでいる「課題先進県」であり、当館では、利用者自身や地域のさまざまな課題の解決に資する支援を行う「課題解決型サービス」に特に力を入れている。高知県と高知市は「日本一の健康長寿県づくり」や「高知市型共生社会の実現」等の政策を掲げており、当館ではそれらを取り入れつつ、地域の課題解決を目指して、様々な専門機関や団体と協力・連携しながらサービスを提供している。

開架部分だけで約35万点の資料を提供しており、関係分野の資料の充実にも力を入れている。選書は、県市それぞれの収集方針・選定基準に基づき、市は入門書・実用書、県は専門書や調査研究、市町村立図書館等の支援に有用な資料というように、それぞれの特色と役割の違いを活かした幅広い蔵書構成となっており、書架には県と市の本が区別なく並んでいる。しかし、サービスの根幹を成すのは資料の充実だけではなく、「他機関との連携」であり、図書館以外の関係機関・団体とも積極的に連携している。

「健康・安心・防災情報サービス」は、当館で提供している課題解決型サービスの一つである。開架資料5万点に加えて、館内で配布するチラシやパンフレット類、掲示するポスター類は、主に県市各課や大学病院から提供を受けている。連携をすることで図書館は本の展示に加え一歩踏み込んだ情報提供が可能となり、専門機関は新たな人との出会いやつながりが得られる。図書館の持つ「足の運びやすさ」は多くの方に情報を届けることに有効である。こうした取組を県市の各所属に対しても都度発信し、そこから新たな連携が始まることもある。連携の形や深さの程度は様々だが、メリットを挙げればきりが無い。

連携の強みが顕著に表れている取組の一例として、「がん情報の提供」がある。当館では毎年、大学病院やがん相談支援センターなどと連携して「がん相談会」を開催している。相談会とあわせて行う図書展示で並べる本は連携機関の職員と司書と一緒に選び、選んだ本を司書がブックリストに仕立て、展示後も配布する。また、パネル展のパネルは大学病院が専門知識に基づいて作成する。広報は図書館と連携先のそれぞれで行うため、より幅広い対象にアピールできている。「図書館でやっているから来た」という声も多い。

このように、当館の「健康・安心・防災情報サービス」は専門機関との連携なくしては成立しない。互いに連携し、協力することで、それぞれの強みを生かし、弱みを補完することができる。それは即ち、単独で提供するよりも確かな情報を、はるかに多くの県民・市民に届けられるということだ。今後も他機関との連携を強化し、必要な人に必要な情報を届けられるよう、サービスの普及・啓発と利用促進に取り組みたい。



実行委員会企画  
特別講演

# 公共図書館でなぜ健康情報サービスを提供するのか

山重 壮一  
香美市立図書館

公共図書館で「健康情報サービス」を提供する理由はだいたい3つある。

第一に、病気になったら医者まかせという時代ではなく、患者自身や家族などまわりの人間も病気について学習することが必要になったからである。第二には、超高齢社会となり、変な言い方だが、病気がより身近になったこと、また、逆に医療の進歩により、生活習慣が原因となる病気が大きなウエイトを占めるものとなったので、健康な生活習慣とはどのようなものか学ぶ必要が誰にでも出来たということである。さらに、第三として、このような状況の変化で、医療や健康増進になんらかの形で関わる人たちの裾野が広がり、このような人たちの知識や技術を深める情報の提供も必要となってきたからである。

公共図書館の蔵書構成は、一般的には、小説、家事、児童書が多く、その他の分野については、入門・教養レベルに留まることが少なくない。年間に出版される図書は7万から8万タイトルであり、すべてを購入すると2億円近くかかるので、資料費の少ない図書館では十分に購入できないという事情もある。

特に、医学書については、最も後回しにされる分野と言っても過言ではなかった。公共図書館の職員は、いわゆる「文系」の人が多く、いわゆる「理系」が得意でないということもあるが、そもそも、難しい医学書を読む人というのは利用者にはほとんどいない状況だった。

すると、公共図書館の医学の棚はどのようなことになるかという、意図せず、結果的に、怪しい本ばかりになってしまった。例えば、マスメディアで宣伝される、医者には行かない方がいいとか、これを食べれば健康になるというたぐいである。あるいは、もっと「スピリチュアル」なものもある。こういうのを見て、公共図書館は、なぜこのようなものを買うのかという話になるのだが、利用者からリクエストが来るのである。

公共図書館は、利用者のリクエストになるべく応えようとする。それは、ある意味、内容に関わらずである。第二次世界大戦中に検閲に協力していた公共図書館は、強い反省があり、「図書館の自由に関する宣言」を行い、利用者の読む自由を保障することを謳っているからである。しかし、事前には積極的に医学書を購入しないで、リクエストには積極的に応えようとすると、怪しい本ばかりが医学書の棚に並ぶ結果になる。

「図書館の自由」は、民主主義社会の主権者である住民の学習権や知る権利を保障する図書館にとって欠かせないが、正確な医療や健康に関する知識を得られないのであれば、それは、学習権や知る権利を保障しているとは言えない。そこで、公共図書館でも正面から、医療・健康情報の提供に積極的に取り組む必要が出て来た。そしてまた、現在の日本の政治・行政の課題が経済や産業の復興と同時に、国民の健康長寿の実現であることから、役に立つ図書館としてぜひともやらなければならないことになった。むろん、公共図書館職員は医療関係の専門家ではないので、専門機関と連携・協力することも必要となった。今後は専門性の違いを越えて、お互いに積極的に交流を深める必要があると言える。

## 講演者プロフィール

- 1962年 東京生まれ
- 1985年 図書館情報大学（現 筑波大学知識情報・図書館学類）を卒業  
目黒区立守屋図書館に就職 図書館情報システム導入に携わる
- 1992年 目黒区立目黒本町図書館に勤務 ヤングアダルト・サービス担当  
その後も目黒区内の図書館に勤務
- 2008年 高知県立図書館 利用サービス担当チーフ  
オーテピア高知図書館の準備に携わる
- 2018年 オーテピア高知図書館 専門企画員
- 2023年 香美市立図書館 図書館統括官

- 図書館問題研究会 元事務局長
  - ヤングアダルト・サービス研究会 元代表
- などを歴任したほか、ビジネス支援図書館推進協議会の設立にも関わる。

### 著作

- 「地域活性化と図書館－高知県立図書館の場合」（日本図書館協会『図書館雑誌』2009.5）
- 「地域の価値を創造する公共図書館」（日本図書館協会『現代の図書館』216号2015.12）
- 「縣市合築のオーテピア高知図書館：連携から共同運営へ」（専門図書館協議会『専門図書館』2019.1）
- 「課題解決型図書館オーテピア高知図書館の取組み」（『人文会ニュース』2020.4）ほか

MEMO

実行委員会企画  
継続教育

# 大学・大学院での研究活動と文献検索の現場

諏訪敏幸

大阪大学，国立成育医療研究センター

書誌データベースや文献検索システムのマニュアルにはそれらの仕様が書かれており，それらがどんなデータを持ちどのように検索できるかはわかる。他方それらが実際にどう使われたかは，システムティック・レビュー論文の「Search Strategy」などでその一端を知ることができる。しかし検索の現場で起こることの多くは，そこには書かれていない。文献検索には多様な現場があり，実際にそこで行われること，考えなければならないことは，現場の性格によって少しずつ異なる。臨床と学術研究では検索に求めるものが違い，同じ「研究」でも医薬品開発などの研究はまた異なるだろう。細かく言えば，学術研究のための検索でも先行研究調査，システムティック・レビューのための文献収集，スコーピング・レビューのための検索はそれぞれ要求が異なり，さらに先行研究の検索でも，研究テーマの検討段階と研究計画書を詰める段階，そして考察の段階では少し違う。

研究のための文献探しの柱となるのは書誌データベースの系統的検索である。しかし検索に「正解」はない。たしかに「より良い検索」と不適切ないし不十分な検索との違いはある。だが文献検索は研究において，問題探索・データ収集・分析・考察など多様な活動の一環であり，それ単独で善し悪しが言えるようなものではない。むしろ研究目的に沿いつつより広い視野を得ることや，研究活動全体の中で活用できる適切な答を出すことこそ，検索の現場では重要となる。そのためには検索担当者も研究を理解しなければならないし，また研究者も検索について知らなければならない。検索に先立つ，研究者へのインタビューと討議による認識の共有も不可欠となる。その一方で，その時々や目的に合わせて，さまざまな配慮や例外的対応を必要とする場合もある。その限りで，検索の過程は研究者と共同で創造的に進める研究の一過程でもある。

このような中で，こうした活動を支える書誌データベースと検索システムが信頼に足るものであるかも問われるが，現状ではまだ課題が多いと言わざるを得ない。

なお今回は検索相談・研究相談や毎年数件のシステムティック・レビュー研究，臨床ガイドラインプロジェクトへの参加・協力など自身の経験に基づいてお話しする。この中で件数的にウェイトが大きい検索相談(1998年以降累計6000件余)の多くは看護学であり，医学・歯学その他の分野も何百件かあるものの，経験的背景は看護学に偏っている。これは現在の検索要求の分布をある程度反映しているとも言えるが，ともあれ全体的にこのような偏りがある下での話題提供となることは念頭に置いてお聞きいただきたい。

## 講演者プロフィール

1998～2013年大阪大学生命科学図書館，看護・医学系を中心に検索相談活動，講義，プロジェクト参加など。主著は『系統的文献検索概説』（近畿病院図書室協議会，2013）。2014年以降もこれらの活動を継続しつつ，知識社会学・科学計量学を研究。博士（人間科学）。

連絡先：mktb@tcct.zaq.ne.jp

## 口頭発表 A



## 教科書に記述された保健衛生

### －戦前の高等女学校家事教科書の場合－

菅 修一

花園大学文学部図書館司書資格課程

発表者は市民が学校教育の中で、いつ伝染病予防について学んでいたか教科書の内容を調べている。

戦後の小学校検定教科書においては、長く社会科において伝染病予防が取り上げられていた。このことについては「医学史研究」第103/104号（2023.3）にて「小学校社会科教科書の伝染病（感染症）関係教材」として報告した。なお、戦後の中学校検定教科書にあっては保健体育において取り上げられていた。

戦前の小学校教科書にあっては修身において、昭和9年度から学年進行により使用された第四期国定修身教科書『尋常小学修身書』の巻五において「第六 衛生」という教材に伝染病関係の記述があるもののわずかな記述に留まる。その後、昭和17年以降学年進行により使用された第五期国定修身教科書『初等科修身』において該教材は消滅していた。

一方、初等教育の学校ではなく、中等教育学校の教科書を調べたところ、昭和19年2月に刊行された高等女学校様の『中等家事』の二において、「五 季節と衛生」という伝染病に関する教材が掲載されていた。

本発表においては、本教材の紹介、遡った年代の家事教科書での伝染病の取り扱いを紹介できればと考えている。また、なぜ高等女学校なのか、衛生に関する事項は女性の役割とされていたのか、可能であれば検討したい。

# 東邦大学医学メディアセンターにおける 著作権ヘルプデスクの取り組み

大谷裕， 黛崇仁

東邦大学医学メディアセンター

東邦大学医学メディアセンター（以下、当センター）では、2019年5月に、利用者支援の一環として著作権ヘルプデスク（相談窓口）を開設した。今回の発表では、著作権ヘルプデスクに寄せられた相談内容についてとりまとめ、今後の展開について検討を行う。

## 1. 相談内容の分析

### (1) 受付件数

- 著作権ヘルプデスクでは、2019年度～2022年度にかけて41件（年平均10.3件）の相談を受け付けた。
- 当センターでは、著作権の他に、統計ソフト、文献管理ツール、文献検索、Microsoft Office、LMS、EBM・診療ガイドラインについてのヘルプデスクを設けており、これら全体の同期間の受付件数は750件（年平均187.5件）であった。
- このうち、統計ソフト、文献管理ツール、文献検索は年平均50件以上の相談を受け付けており、著作権ヘルプデスクは5番目となり、中位に位置していた。

### (2) 著作権ヘルプデスクの利用者属性

- 最も多かったのが「教員」24名、次が「事務職員」19名であった。全ヘルプデスクの利用者属性からみると、「教員」の17.4%、「事務職員」の63.2%を占めていた。

### (3) 相談内容

- 相談内容を利用目的で分類すると、講義での利用17件（41.5%）、学事での利用11件（26.8%）、研究での利用7件（17.1%）、その他6件（14.6%）であった。
- 個別にみると「講義での利用」では、講義スライドでの引用方法や講義システムへの教材アップロードに関する問い合わせが寄せられた。
- 「学事での利用」ではオープンキャンパスでの動画公開や、学内刊行物・掲示物への他者著作物利用についての問い合わせが寄せられた。
- 「研究での利用」では、自著論文の公開方法などの問い合わせが寄せられた。
- 「その他」には、出版社からの引用した図に対する料金請求や、学外の面識のない研究者からデータ提供依頼など様々なものがみられた。

## 2. まとめ

- 著作権ヘルプデスクは、教職員からのニーズが高いサービスである。
- 開設前は講義用スライドの確認などが多くと予想していたが、コロナ禍でオンライン授業が中心となり、教材の配布に関する質問が多く寄せられた。従来のレファレンスサービスに近い案件もみられ、図書館業務との親和性の高さもうかがえた。
- 今後は、新たなサービスとして学生向けの著作権啓もう活動に力をいれたい。

# 奈良県立医科大学附属図書館における 感染症・抗菌薬関係図書の現状と選書について

島田 祐衣

奈良県立医科大学附属図書館

### 【Ⅰ．背景と目的】

奈良県立医科大学附属図書館（以下、当館）に入職して1年目の2022年度は図書受入担当に従事した。2021年に司書資格を取得し、当館が司書として経験を積む初めての職場である。図書受入が主担当であるが、相互貸借の依頼業務や利用者教育活動等も経験する機会に恵まれ、日々学ぶことが多い。国内外を問わず最新の医療情報にまつわるトピックスを知ることができる環境だが、やはりこの1年間も新型コロナウイルスのパンデミックによる感染症関連の話題を目にすることが多かった。学生や医療従事者はもちろん、一般市民も感染症や抗菌薬により高い関心を寄せている。返却資料やリクエスト図書において、感染症や抗菌薬関連の資料が多い。研修医向けの医学雑誌には抗菌薬の適正使用について定期的に特集されている。さらに、新聞で多剤耐性菌がトピックとなっている記事が一面に取り上げられていたこともあった。これらの背景より、当館の感染症・抗菌薬関係図書のアップデートに挑戦したいと考えた。

### 【Ⅱ．調査方法】

当館の図書選書は、各教室の指定図書と学生及び教職員のリクエスト図書となっている。指定図書の推薦は予算に上限を設けた上で各教室の判断に任せており、年度によって指定図書冊数は異なる。今回の調査では、感染症及び抗菌薬関係教室である病原体・感染防御医学（基礎医学領域）、微生物感染症学（基礎医学領域）、感染症センター（臨床医学領域）の指定図書を主に調査する。以下の項目を調査し、図書リストを作成して受入を検討する。選書ツールとして、医学書総目録2023等を参考とする。さらに、関係教室や部門にアンケート調査を行い、臨床現場の意見を取り入れた選書を目指す。調査結果については当日の発表で報告する。

- 過去の指定図書の版改訂調査
- シラバスにて指定されているテキスト、参考書で図書館未所蔵をリストアップ
- 関係教室への選書アンケート

## 図書館における学習支援

### －ステップ学習の紹介－

山崎裕司，依光朋子，古田絵理  
高知リハビリテーション専門職大学図書館

理学療法士，作業療法士の国家試験に合格するには，それぞれの専門科目だけでなく，解剖学や生理学，運動学などの基礎医学，内科学や整形外科，神経内科学，精神医学などの臨床医学について学ぶ必要がある。その勉強量は膨大で，できるだけ早くから勉強に取り組まなければならない。高知リハビリテーション専門職大学図書館では，これを援助する目的でステップ学習を2021年から取り入れた。ステップ学習では，2冊のワークブックを用いる。このワークブックは，過去に出題された国家試験問題に関連した内容だけで構成されている。つまり，教科書のように全てが網羅されているわけではない。本文，図表には，出題されたキーワードが赤字で示されており，その前には1文字分の空欄がある。ここにヒントをふって，赤シートをかぶせて想起練習を行う。次のページには過去問を分解した○×問題がある。本文，図表の記憶・理解ができていれば解けるようになっている。赤シートをかぶせて問題を解き，日付と正答数を記録する。

ワークブックは基礎医学と臨床医学の2冊からなり，それぞれを16のパーツに分割している。パーツ1を勉強して，小テストを受ける。中級コースは80%以上の正答で合格，上級コースは90%以上で合格となる。小テストの管理・運営は図書館カウンターで行われ，教員の関与はない。学生には図書館のキャラクターが描かれたシールが渡され，名前を書いて16段階の表に張り付ける。そして，合格するたびにシールを動かしていく。

このシステムには，勉強行動を強化するメカニズムが組み込まれている。まず，ヒントを振ることで想起に成功しやすくなる。想起に成功することは学生にとって良いことであり，想起行動が強化される。1問1答問題に取り組んで問題が解けることも良いことである。1パーツが終われば，小テストを受け，合格すればさらに勉強行動が強化される。どんどんパーツが終わっていくことも良いことであり，16パーツへの接近が勉強行動を強化してくれる。2周目になると，1周目との比較が可能になる。1周目の時よりも短時間で，楽に1パーツが終わるようになる。1周目よりも本文中の赤字が想起できる。○×問題の正答率が向上している。これらはいずれも良いことであり勉強行動を強化してくれる。経験上，基礎医学編の1周目を終えた学生は，忘れたくないとの理由から，2周目を回りたい。その際は，まだ手を付けていない臨床医学を1パーツ済ませたら，基礎医学の2周目を1パーツ勉強してもよいというルールを提案する。学生はこの提案を受け入れてくれる。基礎医学の勉強が学生にとって気持ちのよい刺激になっているからだと思う。

ステップ学習の効果はすさまじい。成績中位の学生が参加して，2周目が終了するところになると，成績上位の学生よりも模擬試験の成績が良くなる。3年生であっても国家試験勉強中の4年生と同等の点数を取るようになる。発表では，実際のステップ学習の進め方とその効果について具体的なデータを示して紹介する。

MEMO

## 口頭発表 B

# 医療系学部初年次多職種連携実習における地域公共 図書館との連携

## — 2年目の事例報告 —

柿崎真沙子<sup>1)</sup>、田中里枝子<sup>2)</sup>、福田光輝<sup>2)</sup>、藤坂康司<sup>3)</sup>、脇田妙子<sup>3)</sup>、和田彩子<sup>2)</sup>、高桑修<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup> 名古屋市立大学, <sup>2)</sup> 名古屋市鶴舞中央図書館, <sup>3)</sup> 名古屋市志段味図書館

### 【医療系3学部連携地域参加型学習】

名古屋市立大学の医療系学部連携早期体験学習カリキュラムでは、医学部、薬学部、看護学部の医療系3学部の1年生を対象に学部を横断して9人前後28グループに編成し28の地域・機関にご協力いただき、地域・機関におけるニーズや課題を発掘し、それらを解決していくグループ学習を実施している。本報告では、2022年に実施した名古屋市内の図書館2館との連携事例について報告する。

### 【各図書館の特徴】

2021年度より連携を開始した鶴舞中央図書館は、140万冊という市内に21館ある市立図書館の中で最大の蔵書を持ち、名古屋市の中央図書館機能を持つ図書館であり、名古屋市が直接運営を行っている。2022年度より連携を開始した志段味図書館は、実用書・読み物・児童書を中心に約7万冊所蔵し、区民を中心に地域で利用される図書館であり、指定管理により名古屋TRC・長谷工グループが運営を行っている。

### 【各図書館でのグループ活動】

2022年度は、どちらの施設も2グループに分かれ、企画を実施した。鶴舞中央図書館ではコグニサイズグループと、がんの本グループに分かれた。コグニサイズグループは高齢者を対象としたコグニサイズ教室の企画をし、11月5日に実施した。がんの本グループは、学生が名古屋市立大学の医師にヒアリングをした上でがんに関連した書籍を選書し、11月19日から12月1日まで展示を行った。志段味図書館では、栄養グループとウォーキンググループに分かれた。栄養グループでは、栄養に関するパンフレットを作成し、清涼飲料に含まれる砂糖の量についての展示を行った。ウォーキンググループは周辺のウォーキングマップを作成し、正しい歩き方の動画を作成しマップ内に二次元コードを掲示することで閲覧可能なものにした。栄養・ウォーキングともに司書の方に選書していただいた書籍と一緒に展示し、11月13日から12月28日まで展示を行った。

### 【結び】

2021年度に引き続き、医療系実習における公共図書館の連携事例を紹介した。2022年度は企画や展示のための配布物作成や選書を行う過程で、学生が学びを深める場面が多くあり、より充実した取り組みを行うことができたと感じている。本カリキュラムでは2023年度はさらにもう1館、公共図書館と連携する。今後も公共図書館との連携を積極的に図っていき、本カリキュラム以外でも連携ができるようになればと考えている。



## 解剖学資料の曙

### ーメメント・モリ芸術と解剖学的表現主義という視点ー

石坂（伊澤）和夏

NPO 法人大学図書館支援機構

解剖学書の古典のひとつとして知られる『グレイの解剖学』の初版は、1858年に出版されている。これに先立ち中世ヨーロッパでは、16世紀にイタリアで出版されたアンドレアス・ヴェサリウスによる『人体の構造』が解剖学研究に革命をもたらした。ヴェサリウスは、ローマ帝国時代のギリシア人医学者ガレヌスの研究者であったが、実際に人体を解剖して描いた図を木版画による挿絵として本書に掲載している。ヨーロッパ中世後期には、メメント・モリ（memento mori = 死を想え）という死生観を主題とする図像作品が一世を風靡したが、そこには美術史における版画というメディアと、グーテンベルクの活版印刷技術とが折しも時を同じくして登場したことが影響していると推測できる。美術史における死の擬人化図像は、解剖学研究という当時の科学の進展と連携して変遷を遂げていく。解剖学資料の描画の誕生とその背景について発表する。



• アンドレアス・ヴェサリウス『人体の構造』  
口絵



• ゴットフリート・ホーフエルト・  
ビドロ『人体解剖学』の挿絵



## 「がんを身近に考える」巡回図書展示の成果と課題

須賀千絵<sup>1)</sup>，池谷のぞみ<sup>2)</sup>，岡本裕樹<sup>3)</sup>，八巻知香子<sup>4)</sup>，張心言<sup>5)</sup>，山下ユミ<sup>6)</sup>

<sup>1)</sup> 実践女子大学，<sup>2)</sup> 慶應義塾大学，<sup>3),4)</sup> 国立がん研究センターがん対策研究所，

<sup>5)</sup> 慶應義塾大学院・国立がん研究センターがん対策研究所，

<sup>6)</sup> 京都府立図書館・慶應義塾大学大学院

国立がん研究センターがん対策研究所では、市民が入手しうるがん情報の質的な充実を目的に、公共図書館と連携した取り組みを続けてきた。巡回図書展示は、この取り組みの一環として行われ、がんに関する図書の展示キットを作成し、全国の公共図書館に貸し出すという事業であった。展示キットは、「がんを身近に考える」というテーマでの展示を想定し、展示用に選んだ本、ブックリスト、POP、がんに関する説明パネル、ブックスタンドなどの展示用機材をひとまとめにしたものである。テーマの設定、本の選択、ブックリストの作成は、患者図書室と公共図書館の職員や図書館情報学の研究者が健康医療情報のおすすめ本を紹介し合う Web 協働選書プロジェクトが担当した。2019 年の北海道浦河町での先行実施を経て、2020 年から本格的に始まった巡回図書展示は、延べ 108 館を巡回し、2023 年 3 月に終了した。本研究では、当展示キットを利用した図書館へのアンケート等から、この取り組みの成果と課題を考察する。

アンケートは、展示を実施した 108 館中 84 館から回答を得た（回収率 77.8%）。選書については 98%，ブックリスト・POP・説明パネルについては約 90% が肯定的に評価するなど、展示キットに対する満足度は、全体として高かった。特に回答者の 93% が、選書の良かった点として「新しい本を知るきっかけになった」ことを挙げており、公共図書館で提供する健康医療情報の充実につながったと思われる。

自由記述の回答では、熱心に見ている利用者の存在や年代を超えての利用があったなどの報告があり、手ごたえを感じている様子も伺えた。また一般市民だけでなく、医療関係者の利用についての報告もあった。展示キットは、展示の完成品ではなく、それぞれの図書館の事情に合わせて活用できるパーツとして企画したため、各館の展示の規模や内容も多様なものであった。展示キットに含まれた資料やパネルだけでなく、既存の蔵書やパンフレットと組み合わせた館も見られた。完成品の展示ではないというメッセージが十分に伝わらなかった館からは、自館には使用しにくいパーツがあるという不満があった。また展示の自由度が高い反面、さまざまな種類のパーツの管理が難しいという課題もあった。

巡回展示を通して、県立レベルから町村立レベルまで、全国のさまざまな規模の図書館に、健康医療情報の提供に取り組む役割があるというメッセージを伝えることができた。新しいサービスを普及するために、一般に、啓発のための資料の刊行や研修の実施といった方法がしばしば用いられる。しかしこれらの方法は、一方的な知識や情報の伝達に留まることも多く、実際のサービスの改善にすぐにつながらない場合もある。巡回展示は、実際のサービスの実施を促す点が大きな特徴であり、図書館員は、自館の利用者の反応を直接確認することもできる。今後、公共図書館における健康医療情報サービスの充実に向け、両者の手法をどのように組み合わせていくか、さらなる工夫が求められる。

## 口頭発表 C

# 国内医学分野における会議録の入手可能性について

## —横断的観察研究—

村上 陽菜

一般財団法人 日本医薬情報センター附属図書館

**【背景】** 研究者が研究集会で行う学会発表の抄録 (Abstracts) をまとめて冊子として発行したものを会議録 (学会抄録集, 要旨集) という。学会発表はその場限りのものであり、会議録がなければ内容を知ることができない。しかし、会議録は代表的な灰色文献 (Gray Literature) といわれ、出版流通のコントロール下になく、学術論文と比較し相対的に収集・保存が困難な学術情報資源である。本研究では医学分野の会議録を対象とする。医学分野における会議録の特徴として、①症例報告の集積、②システマティックレビューにおける出版バイアスの是正<sup>1</sup>、③医薬品の安全性情報収集における法規制などがあり、医学分野の会議録を収集する意義は非常に大きい。

**【目的】** 会議録の収集・保存は学術情報流通における重要な課題のひとつである。本研究では国内医学分野の会議録の入手可能性について検討するため、国内医学会として主に日本医学会分科会 (142学会) を対象に、2010年および2021年に開催された研究集会の会議録について、国内の代表的な医薬文献データベース<sup>2</sup>にNDL-OPACを加えた4つのデータベースの所蔵を調査した。本研究における入手可能性とはデータベースにその会議録の情報が収載されているかいないかに着目した独自の視点である。本研究では経年変化に着目しつつ、「定期刊行物に掲載された会議録は入手可能性が高い」という仮説に基づいた検討を行い、会議録収集の現況、ならびに今後の課題について述べる。

**【結果】** Web of Science での他分野の会議録の収載率を検討した先行研究と比較し、国内医学分野の会議録の入手可能性が高い水準にあることが示された。また、データベースにもよるが、フィッシャーの正確確率検定により、定期刊行物に掲載された会議録は入手可能性が高く、定期刊行物に掲載されない場合は入手可能性が低いことが有意に示された。しかし、2010年から2021年の約11年において、定期刊行物に掲載される会議録は減少し、データベースへの収載も減少していた。さらに、約11年で発行形態が変化した会議録について検討した結果、電子アプリの発行など電子媒体での会議録配布が増加し、定期刊行物に掲載される会議録が減少していること、その結果、入手可能性が低下していることなどが推測された。近年の電子媒体の普及を鑑みると、この傾向は今後も継続すると考えられる。以上より、本研究の結果、国内医学分野の会議録の入手可能性は今後さらに低下する恐れがあり、会議録を定期刊行物に掲載することが入手可能性を高める可能性があることを示した。大会当日は研究方法の詳細、結果の具体的な数値について報告する。

<sup>1</sup> Hopewell S, et al. Grey literature in meta-analyses of randomized trials of health care interventions. Cochrane Database of Systematic Reviews 2007.

<sup>2</sup> 宇山久美子. “国内医薬文献データベースの特徴と検索時の問題点”. EBMのための情報戦略: エビデンスをつくる, つたえる, つかう. 2000, p. 137-159.

## 日本発のシステマティックレビューにおける 文献検索を評価するためのパイロット調査

小嶋智美<sup>1)</sup>, 眞喜志まり<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> Independent Librarian,

<sup>1)</sup> 立命館大学 科学技術研究機構 医療経済評価・意思決定支援ユニット,

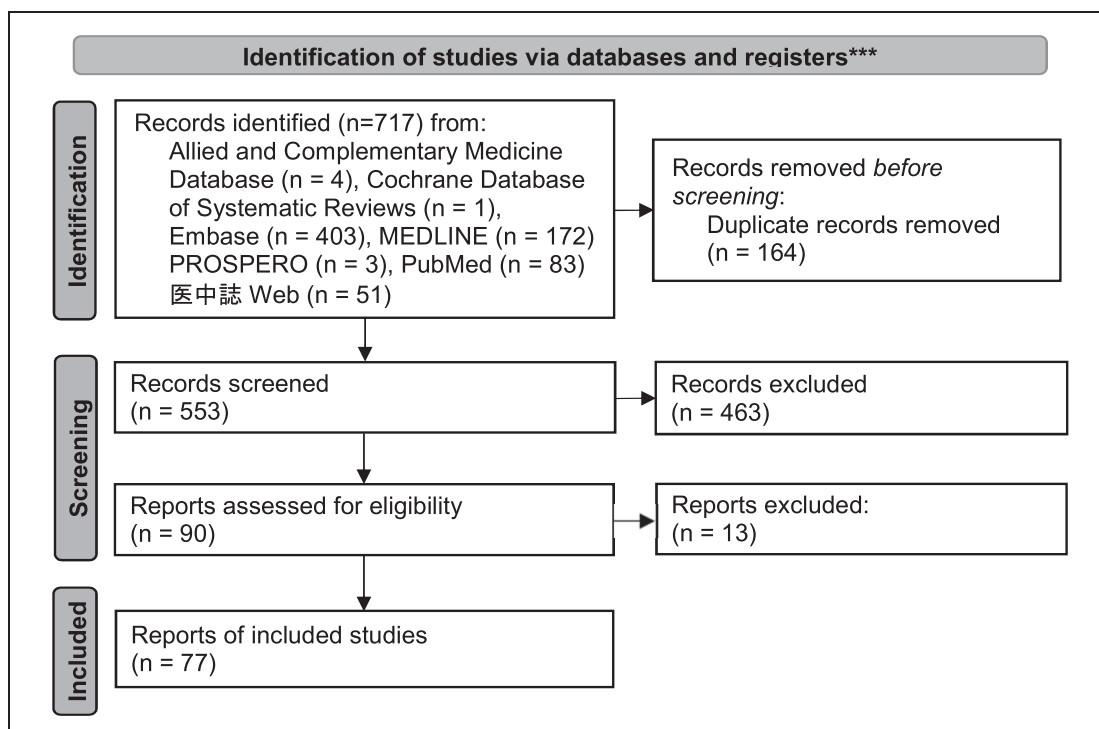
<sup>2)</sup> 東邦大学 習志野メディアセンター

**目的:** 日本から発信されたシステマティックレビュー (SR) における文献検索の評価を行うため、プロトコルの作成を目的としたパイロット調査を行った。

**方法:** サンプルデータは、日本の出版者が発表した SR のうち、対象データベースに 2021 年 1 月分として出版日付が登録された書誌とし、2022 年 8 月 1 日に抽出した。一次スクリーニングは書誌、二次スクリーニングは本文を対象とした。文献検索の評価は、既存のツールの中から PRISMA-S\* と PRESS\*\* を選定し、さらに司書の寄与に関する項目を追加して行った。スクリーニングおよび各文献に記載された文献検索の評価は、本発表者 2 名が独立して行い、判断の不一致が発生した場合は両者で協議した。

**結果:** 調査対象の定義付けや範囲、抽出に用いる検索式、スクリーニングの観点、評価作業の手順等、本調査のプロトコルの骨子を固めた。

**考察:** 今後は、プロトコルの公開および本調査を予定している。今回の発表では、パイロット調査で得た目的以外の気づきについても併せて報告する。



\* <http://www.prisma-statement.org/Extensions/Searching>

\*\* <https://doi.org/10.1016/j.jclinepi.2016.01.021>

\*\*\* <http://prisma-statement.org/PRISMAStatement/FlowDiagram>

## 国内医学部における学内刊行誌・紀要誌の計量的分析

—国際誌を志向する Web of Science Core Collection 掲載誌を対象として—

城山泰彦 (KIYAMA Yasuhiko)

順天堂大学 本郷・お茶の水キャンパス学術メディアセンター

### I. 背景と目的

国内の医学部における学内刊行誌や紀要誌（以下、学内誌）は、筆者が2018年に行った調査<sup>1)</sup>では、医学部を持つ82大学のうち30大学(36.6%)で英文誌を刊行していた。主要な文献データベースに掲載される学内誌は、英文誌と英文・和文混合誌を合すると、PubMed 16誌, Scopus 28誌, Web of Science (WoS), Science Citation Index Expanded (SCIE) 5誌, WoS, Emerging Sources Citation Index (ESCI) 2誌であった。

本調査では、データベースに掲載される学内誌を計量的に分析して、これからデータベースへの掲載を目指す学内誌にとって、参考となるデータを得ることを目的とした。

### II. 調査方法と調査項目

Journal Impact Factor 値 (JIF 値) の付与対象となる、SCIE 2021年版に掲載される学内誌は5誌で、Tohoku J Exp Med (東北大学), J Nippon Med Sch (日本医科大学), Nagoya J Med Sci (名古屋大学), Yonago Acta Med (鳥取大学), Acta Med Okayama (岡山大学)であった。また ESCI 2021年版に掲載される学内誌は3誌で、J Med Invest (徳島大学) と Fukushima J Med Sci (福島県立医科大学) に、2019年版から Keio J Med (慶應義塾大学) が加わった。2023年6月頃に公開予定の Journal Citation Reports 2022年版から ESCI 掲載誌も対象に含むため、8誌に JIF 値が付与される見込みである。

上記8誌を対象に、ジャーナルの指標や学問分野における位置づけをはじめ、新規掲載にあたって求められる、編集委員会体制、掲載文献の著者多様性、引用動向等を確認した。

### III. 結果と考察

調査結果から、データベースに掲載される学内誌の傾向を確認できた。データベースに掲載されるためには、ジャーナルの選定基準をクリアしたうえで、編集委員会体制、掲載文献や被引用文献の質や影響力を保つことなどが求められる。調査の過程で、身近な存在である学内誌を刊行する意義と、国際的なジャーナルを目指すためにデータベースの選定基準を整えることは、必ずしも一致した方向性ではないように思われた。学内誌が備え持つ特色と、ジャーナルの方向性を示す明確な“Aims and Scope”が大切であると感じた。そのうえで、医学図書館員の立場から支援できることを検討していきたい。

1) 城山泰彦. 国内医学部における、学内刊行誌・紀要誌の計量的分析：国際誌を志向する学内誌の特徴と、引用文献の動向. 第35回医学情報サービス研究大会抄録集：2018年8月4日～5日；東京：医学情報サービス研究大会；2018.p.42.

【抄録に記載した数値と、演題発表時の数値は異なる】



## 2011～2022年国内誌における医学文献生産動向

児玉 閲

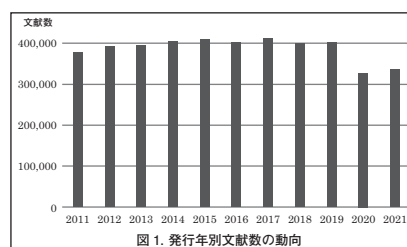
大妻女子大学 教職総合支援センター

### 1. はじめに

医学中央雑誌刊行会が公開している医中誌 Web の収録データ件数をみると、文献数は近年微減傾向にあることが見て取れる。医中誌 Web は国内誌掲載医学文献の収集について日本を代表するデータベースであることから、微減傾向は国内で生産される医学文献数の動きを示唆しているとも考えられる。そこで本調査では文献数と雑誌数をもとに、国内で発行される医学文献の生産動向を明らかにすることを試みる。

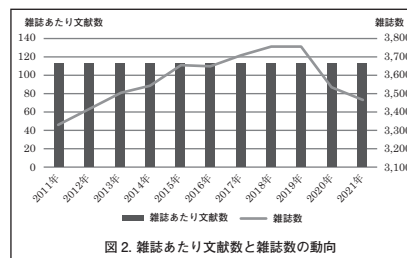
### 2. 発行年別動向

図1は2011～2023年3月1日に医中誌 Web に収録された4,694,784件を発行年別に集計したものである。2012～2019年は40万件前後で推移しており、文献の生産が頭打ちにあるように見える。2020年以降は大きく減少したのは、コロナの影響と考えられる。なお2022年発行文献の収録は調査時点では途中であって文献数が少ないため、図1～3から外した。



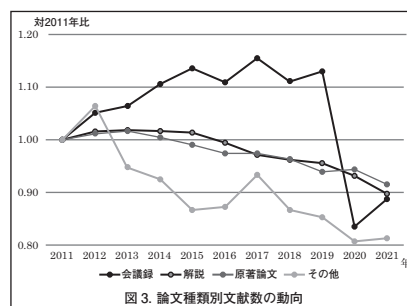
### 3. 雑誌あたり文献数と雑誌数の動向

図2は2011～2021年における雑誌あたり文献数と雑誌数の動向である。2019年までは雑誌あたり文献数は微減しているが雑誌は増えており、これにより年間40万件前後の文献数が維持されていたことがわかる。2020年以降は、雑誌あたり文献数も雑誌数も減少していた。



### 4. 論文種類別文献数動向

図3は2011～2021年における論文種類別文献数の動向を対2011年比で示したものである。2019年まで「会議録」は増加、「解説」「原著論文」は微減していた。つまり多くの論文種類で文献数は減ったが、「会議録」が増えることで年間40万件前後の文献数が維持されていたことがわかる。2020年以降はすべての論文種類が減少に転じた。



上記で示した「雑誌あたり文献数」「雑誌数」「論文種類別文献数」の動向に影響を及ぼした雑誌については現在調査を進めている。大会当日の発表で明らかにしたい。

MEMO

## ポスターセッション



# PubMed における COVID-19 撤回論文に関する検索結果の違い

井上 陽路

東京慈恵会医科大学 学術情報センター 図書館

## 【背景】

2022 年に行われた第 6 回 JMLA 学術集会での自身の研究発表で、調査対象となった撤回論文に検索漏れが発生しているのではないかという指摘を受けた。そこから、実際にはどのくらい検索漏れが発生しているのか、また検索から漏れてしまった論文には共通する特徴があるのではないかと考えた。検索から漏れた論文の特徴を知ること、今後の自身の業務に生かしていけるのではないかと思い、本調査を実施した。

## 【目的】

- ① MeSH のみで検索をした場合とそうでない場合の検索漏れ数を調査する。
- ② 検索漏れの論文にはどのような特徴があるのかを調査する。

## 【方法】

PubMed 上で「(covid 19[MeSH Terms]) × (retracted publication[Publication Type]) × (2020/01/01-2023/04/01[Date-Publication])」の検索式を用いて検索をしたものを「① MeSH のみで検索をしたもの」とした。

次に、PubMed 上で「[(covid 19[MeSH Terms]) or ("COVID-19"[Title])] × [(retracted publication[Publication Type]) or (retract\*[Title])] × (2020/01/01-2023/04/01[Date-Publication])」で検索したものを「② MeSH + タイトルにキーワードが含まれる場合」とした。①と②の論文の特徴や差異を、書誌事項を中心に調査した。

## 【結果と考察】

①の検索結果は 55 件であり、全て撤回論文であった。②の検索結果は 233 件であり、そのうち撤回論文は 102 件、撤回通知は 92 件、撤回論文ではない論文が 36 件、その他が 3 件であった。

②の撤回論文のうち、①に含まれない 47 件（③とする）について調査をしたところ、①の論文では撤回までの日数が平均で 263 日であったのが、③では 208 日と短かった。また、①において、MEDLINE 掲載誌でないものが 1 論文であったのに対して、③では 29 論文と多かった。

②では撤回論文ではあるが撤回の表記がなされていないもの、撤回通知は検索結果としてヒットするが、元の論文には撤回の表記がないものや元の論文をたどれないものもあった。MeSH のみで検索を行うと漏れが多く発生してしまうが、キーワードで検索をかける場合には論文に対する情報が不十分なこともあり、利用の際に吟味が必要だと思われる。

## MLA メーリングリスト求人にみる ヘルスサイエンス系図書館員の役割変化

藤原純子<sup>1)</sup>, 柳生奈美<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>加古川中央市民病院, <sup>2)</sup>放送大学

### 【背景】

ヘルスサイエンス系図書館員に求められるスキルや知識は、時代により変化している。米国では1970年代にサーキット・ライダー・ライブラリアン（CRL）やクリニカル・メディカル・ライブラリアン（CML）が登場した。2000年にインフォメーションистが提唱され、エンベディッド・ライブラリアン、またシステム・ライブラリアンや経営に参画するリーニング・ライブラリアンも登場した。NLM（米国立医学図書館）は、2017年からデータ・ライブラリアンの重要性を強調している。日本において専門職としての図書館員の役割を検討する上で、先行する米国の求人情報に着目し、調査を行った。

【方法】米国医学図書館協会が運営するメーリングリストであるMEDLIB-Lを利用した。収集対象はメール件名から[JOB][POSITION]等求人情報を抽出し、エクセルで記録した。対象期間は2022年5月～2023年1月、収集データは①ポジション名 ②機関名 ③求人情報リンクである。なお、③についてはリンク先に給与や待遇等の情報がある場合はテキストファイルで記載した。

【結果】求人は重複を除き140件あり、JOB名の上位5件（件数）は以下の通りであった。Medical Librarian (19), Health Sciences Librarian (14), Education Librarian (9), Electronic Resources Librarian (9), Informationist (8).

【考察】現在もCRLやインフォメーションистの需要がある。教育系（Education）や、システム系(Data, Electronic, Digital)等は名称が細分化しており個別のスキルに特化していた。

【研究の限界と今後の課題】今回は限られた期間のパイロット調査であり、リンク先の求人情報も掲載期間が短いため、十分に内容や待遇を吟味するには至っていない。今後の課題として、過去のリストアーカイブとの求人職種の変遷や、新規求人の追跡調査を行い、ヘルスサイエンス系図書館員に求められるスキルや待遇についての変化を明らかにしたいと考える。

### 【参考文献】

佐藤正恵. 病院図書室のエンベディッド・ライブラリアン：マグネット・ライブラリーを目指して3：図書館員の活動モデルを考える. 薬学図書館. 62(3), 144-146, 2017.

酒井由紀子. 米国の医学図書館員の質保証. 専門図書館. (279): 21-26, 2016.

Davidoff, F. Florance, V. The informationist: a new health profession?

Ann Intern Med. 2000 Jun 20;132(12): 996-8.

Lacchia, A. Librarians seek more support as research partners; Report highlights lack of institutional recognition of changing librarian roles. Nature index.20.sep.2021.

【謝辞】佐藤正恵氏（千葉県済生会習志野病院）に文献提供，ポスター印刷等の協力を得た。

## オーテピアにおける点字図書館・公共図書館の連携 について

伊藤 嘉高

オーテピア高知声と点字の図書館

図書館利用に障害のある人々へのサービス（障害者サービス）として、録音図書<sup>1</sup>等のバリアフリー図書や機器の配置や、利用者が希望する図書等をボランティアが読み上げる対面音訳（対面朗読）があるが、多くの公共図書館では十分な障害者サービスを提供できているとは言いがたい現状にあり、全国的にかなり差がある<sup>2</sup>。

高知県高知市にある図書館等複合施設オーテピアでは、公共図書館の高知図書館（高知県立図書館・高知市民図書館本館）と点字図書館<sup>3</sup>である高知声と点字の図書館とが、所蔵資料による役割分担をして、連携してサービスを行っている。具体的な連携事例について、今後の課題と合わせて紹介する。

### 【役割分担】

- ・著作権法により利用者が限定されるバリアフリー図書（点字図書・録音図書・マルチメディアデージー図書等）に関連するサービス ⇒ 高知声と点字の図書館
- ・利用制限のないバリアフリー図書（大活字本, LLブック, 布の絵本等）に関連するサービス⇒高知図書館

### 【連携事例】

- ・視覚障害者等サービス利用登録（両館共通様式で情報共有）
- ・対面音訳サービス（両館共同で実施）
- ・福祉施設への貸出（図書館の本＋点字図書館の読書支援機器）
- ・バリアフリー機器の展示
- ・人事交流
- ・出前図書館，出前講座等のPR活動（両館共同で実施）

### 【課題】

- ・視覚障害者への対応 = 「点字図書館」という意識になりやすい
- ・視覚障害者以外のサービスへの対応が難しい



<sup>1</sup> 日本点字図書館 録音図書について

<https://www.nittento.or.jp/about/scene/recording.html>

<sup>2</sup> 日本図書館協会障害者サービス委員会「図書館利用に障害のある人々へのサービス（障害者サービス）基準 公共図書館編β版（試案）」[http://www.jla.or.jp/portals/0/html/lsh/dokubari\\_kijun\\_beta.html](http://www.jla.or.jp/portals/0/html/lsh/dokubari_kijun_beta.html)

<sup>3</sup> 身体障害者法第34条に基づく視聴覚障害者情報提供施設の一つである。視覚だけでなく、発達、肢体不自由等の障害により、書籍を視覚（目からの情報）で認識・理解することが困難な方が利用対象である。全国的に点字図書よりも録音図書（デージー図書）が多い。図書館法に基づく図書館ではない。

## 高齢者のヘルスリテラシーを向上する教材開発

### －成果物の形成的評価－

三輪眞木子<sup>1)</sup>，佐藤正恵<sup>2)</sup>，山下ユミ<sup>3)</sup>，磯部ゆき江<sup>4)</sup>，阿部由美子<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup> 放送大学，<sup>2)</sup> 千葉県済生会習志野病院，<sup>3)</sup> 京都府立図書館，<sup>4)</sup> 二松学舎大学

本研究では，高齢者のヘルスリテラシー向上を促す方策として教材を開発した。ポスター発表では，開発した教材の形成的評価と教育効果検証の方法と結果を述べる。

**背景と目的：**高齢化が進む日本では，高齢者層の健康管理が重要課題となっており，健康寿命の延長方策が求められている。本研究は，健康・医療情報アクセスにおける年齢によるデジタルデバイドに着目し，医療関係者10名のインタビュー調査と高齢者102名のアンケート調査を実施したところ，75歳未満と75歳以上に有意差は認められなかった。インターネットで健康医療情報を探す高齢者はヘルスリテラシーレベルが高いこと，女性の方が男性に比べて「情報を理解し人に伝える力」が高い傾向があることが明らかになった。研究成果に基づき高齢者のヘルスリテラシー向上を促す方策として教材を開発し，この教材を用いたインスタラクションの効果を測定した。

**方法：**2021年度から放送大学が実験的に開始したライブWeb授業において，開発した教材をテキストとして使用し，2022年6月3日～7月6日に7コマ（計630分）の講義を実施し，7月6日の最後の授業では学生同士のディスカッションによる振り返りを実施させた。学生に任意に受講登録させたため受講者は21歳～79歳（男性3名；女性4名）と年齢の幅が広く，想定した年齢層（65歳以上）に限定されなかった。

教材の量的評価では，授業がヘルスリテラシーレベルの向上にどの程度貢献したかを測定するため，伝統的・批判的ヘルスリテラシー（CCHL）尺度による受講前と受講後の受講生のヘルスリテラシーレベル（5件法）を比較した。また，各回授業の達成度を把握するため，受講生に授業前と授業後に目標達成レベル（5件法）を，放送大学のリアルタイム評価支援システム（REAS）を使用し，ライブWeb授業のMoodleサイトから登録させた。受講終了後3日以内に教材評価レポートを受講者に提出させ，内容分析を実施した。

**結果：**ヘルスリテラシーレベルは，全項目で受講前より受講後の方が高かった。従って，開発した教材はヘルスリテラシーレベルの向上に効果があることが示された。

各回の学習目標達成度については，第2回のデータが取得できなかったため，第1回，第3回，第4回，第5回，第6回，第7回の授業前と授業後を比較した。一部の項目では天井効果のため受講前と受講後の差が認められなかった。受講生の受講前の数値が高かったため天井効果が生じたものと思われる。質的評価では，学生のレポートの内容分析結果に基づき，必要に応じて教材を加筆・修正した。

**結論：**開発した教材は年齢に関係なく学生のヘルスリテラシーレベル向上に有効であることが明らかとなった。ただし，サンプルが非常に少ないこと，ライブWeb授業の性格上インターネットを使いこなせない受講者はいなかったことからさらなる調査が必要である。今後は，公共図書館での実践を予定している。

# 病院図書室の目録業務についての考察

## —NACSIS-CAT 図書書誌データ作成件数を中心に—

下山 朋幸

国立精神・神経医療研究センター図書館

### 1. 研究の背景と目的

図書館に目録業務はコピーカタログが主流となった現在、書誌データを一から作成する目録業務については、大学図書館では現在でも行っているとされるものの、「公共図書館や学校図書館では不要となりつつある」（注1）とされる。しかしながら病院図書室における状況については明らかにされていない。

本研究では、病院図書室の目録業務について、国立情報学研究所「目録所在情報サービス」（通称：NACSIS-CAT，以下同）における図書書誌データ作成件数を元に分析する。

### 2. 先行研究

医中誌 Web および CiNii Research にて「病院 図書室（図書館） 目録」で検索を行ったところ、結果のほとんどは「目録」を所蔵目録，あるいは相互利用を主な目的とした総合目録を扱ったものであり、書誌データの作成・編集についての研究を見つけることはできなかった。

### 3. 研究の手法

毎年度公開されている NACSIS-CAT の機関単位の新規書誌データ作成件数の内、病院図書室，および医療系機関における件数を時系列的に分析する。この手法を用いる理由としては、NACSIS-CAT は主たる参加機関は大学図書館が中心であるが病院図書室でも参加しているところがあること，また参加機関が書誌データを作成し共有する共同分担入力採用している我が国で唯一の総合目録データベースであり，機関ごとの作成件数が公表されているからである。

当日の発表では，主に病院図書室における新規書誌データの件数の数値を分析し，その傾向について報告する。

注

1) 高野真理子「コラム：目録技術に未来はあるか」，情報の科学と技術 67 (8)，2017

## 参加者企画



## 米国国立医学図書館（NLM）の研修を 受講してみよう！

山下 ユミ

京都府立図書館／慶應義塾大学大学院

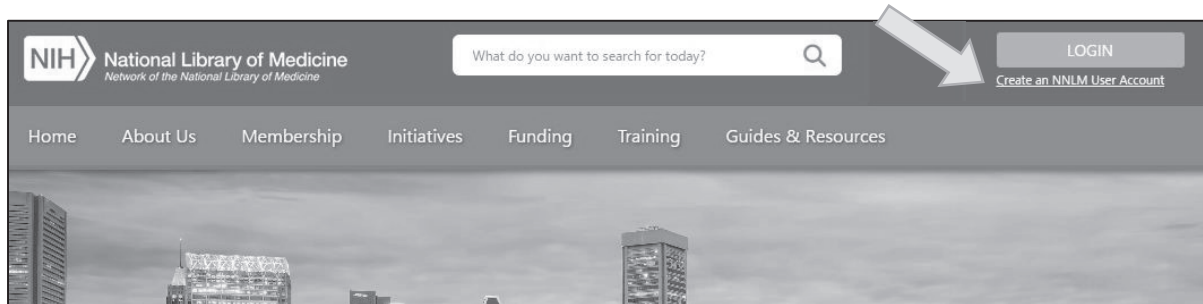
米国の国立医学図書館（NLM）は、NNLMというネットワークを通じて、誰もが無料で受講できる研修プログラムを数多く提供しています。その内容はPubMedなどのデータベースの使い方から、蔵書構築の方法、レファレンスの方法など多岐にわたります。言語は英語ですが、自分のペースで進められるコースが大半です。一般市民向けの健康医療情報提供に関するプログラムを中心に、実際の画面を紹介し、登録方法や受講方法についてお話しします。

### ■ワークショップの内容

- NNLM の研修プログラムについて
- アカウントの作成と、プログラム登録の方法
- 研修内容の紹介
- （実習）研修の登録と、実際の受講
- 質疑応答

### ■事前の準備について

NNLM のアカウントは、どなたでも作成することができます。可能であれば、<https://www.nlm.nih.gov/> にアクセスし、右上の”Create an NNLM User Account” をクリックして、アカウントを作成しておいてください。



### ■設備について

実習時には、会場に準備されている15台のパソコンを使用できます（インターネット接続は専用回線を使用します）。また、ご自身のPC使用も可能です（インターネットは、会場のWi-Fiが利用できますが、館全体での回線容量があります）。

なお、見学のみの参加も歓迎です。

# 文章生成 AI のもたらす学術情報等への影響について

—何が出来る？どう活かす？一緒に考えてみませんか—

橋本 郷史

東邦大学医学メディアセンター大橋病院図書室

## 企画概要

昨今、生成系 AI (Generative AI) が世間を賑わせています。それに関するニュースを聞かない日はないくらいです。学術情報の分野でも、GPT を始めとする文章生成 AI は大きな注目を集めており、すでに無視できない影響力を発揮しています。

文章生成 AI はその名の通り文章を作り出す AI ですが、その利用方法はそれだけにとどまりません。論文の検索やエビデンスの要約、研究における重要な視点の提供、研究手順の提示、データ解析を行うコードの生成など、この AI を活用した研究や論文作成を支援する様々な方法が生み出されています。一方で、その利用には注意すべき点があることも指摘されています。各大学からも利用に関する制限やガイドラインが発表されており、出版社は論文作成に使用する際のポリシーを設け始めています。

拒むと拒まざるとに関わらず、この新しい潮流からは逃れようがありません。ならば、乗るしかないこのビッグウェーブに。でもどうやって？この技術とどう向き合い、何に注意してどのように活かしていけばいいのでしょうか。圧倒的な情報量を前に、一人で調べ・考えられることには限界があります。まだ一人で消耗してゐるの？私がまさしくそんな消耗している一人です。この状態を解消するため、“みなさん”と意見や情報を交換し“一緒に”考えたい、と思いこの企画を立ち上げました。

最初に企画者から生成系 AI に関する基礎的な情報（仕組み、利用例、指摘されている課題・限界、学術界の反応など）を簡単に提供し、その後皆さんとディスカッションをしていきたいと思えます。私自身 AI の専門家ではありませんので、立場は皆さんと同じです。なお、本企画は、オンラインでも参加していただけるよう準備を進めています。たくさんの方の参加をお待ちしています。

## 参加される方へのお願い

生成系 AI について、ご自身の意見や利用・体験例、収集した情報などを、仕事・プライベート問わず、特定の分野に限定せず、身近なもので結構ですのでお持ち寄りください。

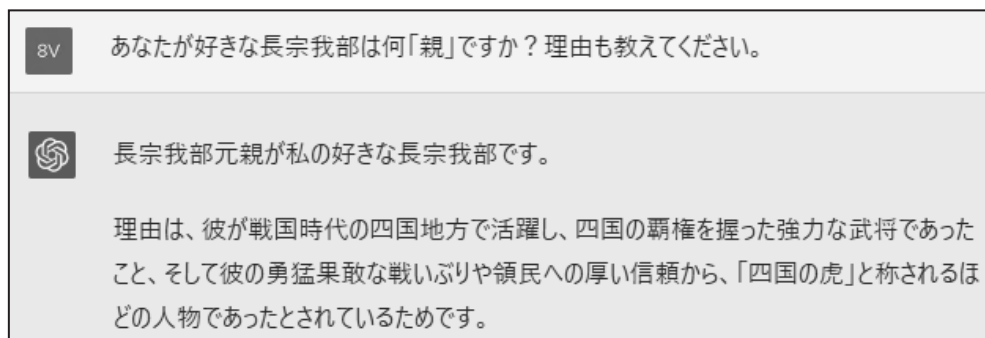


図 1. 開催地（高知）にちなんだ質問を AI にしてみた例。



## 【参加者企画】メディアドクター・ワークショップ 「プレスリリース」と「報道記事」の読み比べ

### ーがん治療の副作用をどう伝えるかー

佐藤正恵<sup>1),4)</sup>、北澤京子<sup>2),4)</sup>、渡邊清高<sup>3),4)</sup>

<sup>1)</sup>千葉県済生会習志野病院、<sup>2)</sup>京都薬科大学、<sup>3)</sup>帝京大学医学部内科学講座 腫瘍内科

<sup>4)</sup>メディアドクター研究会

【メディアドクターとは】 <http://www.mediadoctor.jp/>

2020年からのCOVID-19感染拡大後、ネットやSNSでフェイクニュースが拡散するなど、健康・医療情報の“質”は、今や、全世代が関心を持つテーマです。医学図書館、公共図書館など情報を収集・提供する立場の方や、情報を受け取る市民や学生さんも、情報の取捨選択に迷うことが多いのではないのでしょうか。

メディアドクター研究会は、健康・医療情報の“質”を読み解く力を育み、よりよい報道や情報発信につなげる活動として2007年に発足しました。オーストラリアの大学で発案された指標を基に、日本の状況に合わせて改訂した「メディアドクター指標」を用いて、記事の評価を行っています。ほぼ隔月で開催される定例会ワークショップはこれまで80回を超え、多様な参加者（医療従事者、ジャーナリスト、図書館司書、患者支援者、学生、市民など）の参加を得て、記事やネットニュースの評価とディスカッション、さらに専門家のミニレクチャーを行ってきました。全国各地の公共図書館や患者会、学校などでも「ご当地版メディアドクター」としてワークショップを行っています。MIS（医学情報サービス研究大会）では、これまで東京/大阪/福岡大会で参加者企画を開催してきました。

ワークショップ以外の活動として、2022年にはNHKテレビ番組「フェイクバスターズ」に協力しました。さらに医療系情報初学者のためのハンドブックとして「さがす・読む・伝える はじめての医学系情報」（2023、日本医学出版）を出版しました。

#### 【今回のテーマ】

今回のワークショップは、がん治療に関する記事がテーマです。まず「メディアドクター指標」を使って記事の評価、吟味します。さらに、その記事の基となったプレスリリースがどのように作られ発信されるのかを学びます。今回は新たな試みとして、記事用の「メディアドクター指標」に加えて「プレスリリース用メディアドクター指標」を用いて情報を吟味します。専門家によるミニレクチャーもあります。参加者によるディスカッションを通して、健康・医療情報を伝える力、読み解く力を高めるきっかけとなれば幸いです。初めて参加する方、医療の専門的知識がない方も大歓迎！どうぞお気軽にご参加ください。Learning from each other! 共に学びあいましょう。[2023/7/2@MIS38 高知大会]

## プロダクトエキシビション

株式会社サンメディア

株式会社メテオ

iJapan 株式会社 /iGroup Japan

NPO 医学中央雑誌刊行会

株式会社医学書院

ユサコ株式会社

Thieme Group

株式会社タック・ポート

株式会社紀伊國屋書店

株式会社ブレインテック

EBSCO Information Services Japan 株式会社

日本事務器株式会社

丸善雄松堂株式会社

株式会社カーリル

## E-01

# サンメディアのトータル e コンテンツソリューション

株式会社サンメディア e-Port カンパニー

### 【文献入手のための Web サービス】 ARROW

学術文献の入手をトータルにサポート



文献の電子配信サービス Article Direct と、図書館より入手した文献を宅配や FAX でお届けするフルサービスドキュメントデリバリーをひとつのプラットフォーム ARROW から利用できます。医中誌 Web や JDream III 及び、リンクリゾルバと ARROW を連携して依頼することもできます。

### 【ウェブスケールディスクバリーサービス】 Summon

様々な資料をまとめて検索



Ex Libris 社のウェブスケールディスクバリーサービス “Summon” は、図書館が提供する様々な種類の学術資料を、一つの検索窓からまとめて検索することができます。また管理者機能にて“雑誌選定にも使える利用統計”や、“検索語の集計”などが行えるため利用者の関心の動向の確認もできます。

### 【リンクリゾルバ】 360 Link

他の追随を許さない高い品質を誇るナレッジベース



360 Link を通じ、購読中のコンテンツだけでなく無料で公開されているコンテンツの本文にも利用者をナビゲートすることができます。一部出版社のタイトルは購入タイトルや年間購読タイトルを自動的にディスクバリーサービスやリンクリゾルバに登録する機能に対応しているので手間なく登録漏れを防げます。

### 【洋雑誌の全文データベース】 ProQuest

ProQuest は Nature 本誌および Nature 姉妹誌 継続収録！



ProQuest の医学・看護系データベースは、Lancet や NEJM、BMJ などの人気タイトルを全文収録しております。他にも学位論文やニッチなタイトルも多く収録しており研究者の多様な需要にお応えできます。

また弊社からご契約のお客様には PubMed 講習会を行います！

### 【国内医学・薬学・看護関連の電子ジャーナルサイト】 PierOnline (ピアオンライン)

主要医学出版社 7 社の 43 誌を収録！



国内唯一の精神科薬物治療の専門誌「臨床精神薬理」、 「癌と化学療法」「医学のあゆみ (PPV)」等主要な医学雑誌を、エンバゴなしで最新号からご利用いただけるのは PierOnline だけ！

### 【その他取扱商品】

RefWorks



JDream SR

等々

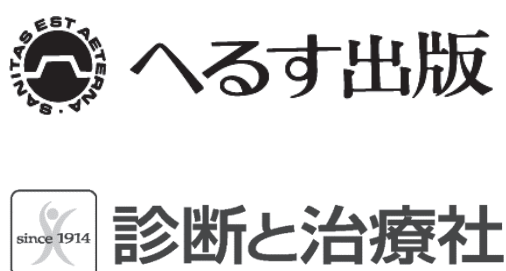
# メディカルオンライン

## ーイーブックスライブラリーのコンテンツを中心にー

平 和摩  
株式会社メテオ

### 1. イーブックスライブラリー

「年間購読制」、「買い切り制」で新たに配信を開始した出版社を中心に、Myコレクションの活用方法についてもあわせてご紹介します。



### 2. 新検索エンジン（groonga）の実装

新検索エンジンの実装に伴うメディカルオンラインの変更点についてご紹介します。

- ✓ 高速・高精度な全文検索エンジン
- ✓ 検索結果の最大表示件数が 500 件から 10,000 件へ拡張
- ✓ 検索時に類義語検索の使用 / 不使用の選択機能を追加

Medical Online search interface details:

- Navigation: ホーム, 文献, イーブックス, くすり, プロダクト, ブックセンター
- Search Bar: 文献を検索 (20件), オプション, アラート設定
- Options:  類義語を使用する,  本文閲覧可のみ
- Filters:
  - 文献種別:  原著,  報告,  抄録
  - タイトル: [ ] 雑誌名: [ ] eISSN/ISSN: [ ]
  - 著者: [ ] 所属: [ ] キーワード: [ ]
  - 発行年: [ ] ~ [ ] 巻: [ ] 号: [ ] 開始ページ: [ ]
- Buttons: [検索], 検索条件をクリア

### ■お問い合わせ

株式会社メテオ 営業部

Tel : 03-5577-5877 Email : info@medicalonline.jp




## 便利で魅力ある図書館づくりをサポート —情報提供図書館からスキル開発サポート図書館に—


笠間 和喜 / 楊 綺玲  
iJapan 株式会社

弊社 iJapan 株式会社のサービス及びソリューションについてご紹介いたします。


### ○ ジャーナル購読分析ツール

 は、お客さまの COUNTER 準拠の利用統計と出版社のジャーナル別の価格表を照らし合わせ、費用対効果を測定するツールです。利用統計というエビデンスに基づく、次年度以降のジャーナルの購読シミュレーションを行うことができます。お客さまのジャーナルへのアクセスを課金論文及び OA での代替可能な論文へのアクセスや ILL の費用も考慮されているため、より効率よく戦略的な購読形態を実現するための判断材料として活用いただけます。


### ○ リモートアクセス・サービス

 は、コンテンツの集中管理と必要な部局に必要なサービスを選んで提供することをコンセプトとした、リモートアクセス・サービスです。URL の書き換えの伴わないプロキシ技術により、安定したコンテンツへのアクセスを実現しました。ユーザはリモートでアクセスしていることを意識することなく、リモートアクセスを提供するサービスです。さらにユーザには Mobile App や Google 検索でのコンテンツのナビゲーションとともにユーザに利便性を提供します。同時に管理者にはユーザのジャーナルレベルの利用統計を提供します。

### ○ 3D モデル、AR 及びアニメーションを活用した双方向の解剖学学習プラットフォーム

 は、Web ブラウザ、モバイル・デバイスを通じて、7カ国語でアクセス可能な、解剖学で最も細微にわたる正確なコンテンツを提供しています。人体モデルは著作権を有しており、人体のモデルを活用して、解剖学、生理学及び病理学情報を提供しています。個人毎のアカウントの作成により、フラッシュカードやマイライブラリ等を活用して、人体のメカニズム及び解剖学の理解を促進します。

### ○ 周術期処置のガイドライン

 はアメリカにある周術期看護学会で、手術室での様々な処置や事前準備について、35項目に渡るガイドラインを提供しております。このオンラインのエビデンスに基づくガイドラインは、Print 版と異なり、購読期間中にガイドラインが自動的にアップデートし、文章で理解するだけでなく、AORN 発行の eBooks や画像や動画や FAQ などとともに、より素早くガイドラインを理解できるよう設計されたデータベースです。

## 医中誌 最新情報

### －皆さまに支えられて創刊 120 年－

寺脇一寿

NPO 医学中央雑誌刊行会 データベース事業部

医学中央雑誌は 2023 年 3 月、創刊から 120 周年を迎えました。利用者の皆様、ならびに関係者の皆様の厚いご支援に深く感謝申し上げます。

本プロダクトレビューでは、120 年を迎えた医中誌の最新情報をご紹介します。



#### 1. OLD 医中誌プロジェクト完了

当会では 2010 年より「OLD 医中誌プロジェクト」と称して、1983 年 3 月発行以前の医学中央雑誌に掲載された論文情報のデータ化に取り組んでおり、2020 年 3 月までに 5 回の追加収録を行い、1946 年のデータまでを遡及追加してまいりました。

そして創刊 120 周年となる 2023 年 3 月、創刊号（1903 年発行）までのデータの追加収録を行いました。これにより、13 年にわたって実施してまいりました「OLD 医中誌プロジェクト」が完了し、1903 年の医学中央雑誌創刊から現在に至る 120 年分すべての文献情報を一挙に検索できるようになりました。

#### 2. 医学用語シソーラス第 10 版改訂

2023 年 1 月に医学用語シソーラスを改訂し、第 10 版となりました。第 9 版の基本方針を踏襲し、米国国立医学図書館（NLM）の MeSH2022 年版に準拠して改訂を行い、第 10 版におけるシソーラス語数は 33,165 語（第 9 版から 1,404 語増）となりました。

#### 3. 医中誌 Web バージョンアップ第 2 弾（書籍検索機能）のご案内

医中誌 Web の第 2 弾のバージョンアップとして、医学書籍情報の検索機能を搭載します。検索結果から、提携する各電子書籍サイトへリンクし、そちらで本文をご覧になれます。リリースの時期や具体的な日程が決まり次第、皆様へアナウンスいたします。

#### 4. 120 周年記念特設ページ

創刊 120 年の節目を記念して特設ページを公開いたしました。関連の深い団体様・企業様から頂戴した御祝辞の掲載や、当会の歴史や医中誌 Web の現況、今後の取り組みなどをご紹介します。（<https://www.jamas.or.jp/120th/>）



長い年月を経てサービスの提供媒体が変わってもなお、創刊者が掲げた「熱心なる研究者には文籍穿索の便を与え、多忙なる実地家には一見医界の趨勢を知るの益を与う」という理念は変わることなく、医中誌 Web は今後も進化してまいります。



## 医学書院 オンライン製品のご案内

大谷悠也  
株式会社 医学書院

医学書院のオンライン製品、「MedicalFinder」、「今日の診療」、「e ナーストレーナー」についてご紹介いたします。また、医書ジャーピー社より販売委託を受けている「医書.jp オールアクセス」についても合わせてご紹介いたします。



【電子ジャーナル】

- ☆コロナ下でも、大学、病院を問わず幅広いご導入を頂いています。
- ★キャンセルはほぼゼロ件。安定的に使っていただけるサービスです。
- ☆「医書.jp オールアクセス」は、多数の有力出版社が新規参加しています。



【診療情報データベース】

- ☆「今日の治療指針」と「治療薬マニュアル」がベースとなっているので、毎年最新の情報を閲覧いただけるサービスです。
- ★ご要望が多かった患者説明用資料、標準的医療説明資料、診療報酬点数など最新コンテンツを実装しました。
- ☆研修医向けのコンテンツを強化した「プレミアムプラス」も好評です。



【看護技術・看護過程を網羅したデータベース】

- ☆コロナ下で、特に学校での導入が急増しました。
- ★定評ある書籍コンテンツが閲覧可能な点も好評です。
- ☆動画に特化した「動画ライブラリー」や講義動画「NANDA-I 徹底解説」をリリースし、施設のニーズに合わせた運用が可能となっています。



【お問い合わせ先】

(株)医学書院 販売・PR 部 EM 販売課

TEL : 03-3817-5652 E-mail : em@igaku-shoin.co.jp



## BMJ Case Reports, BMJ Best Practice

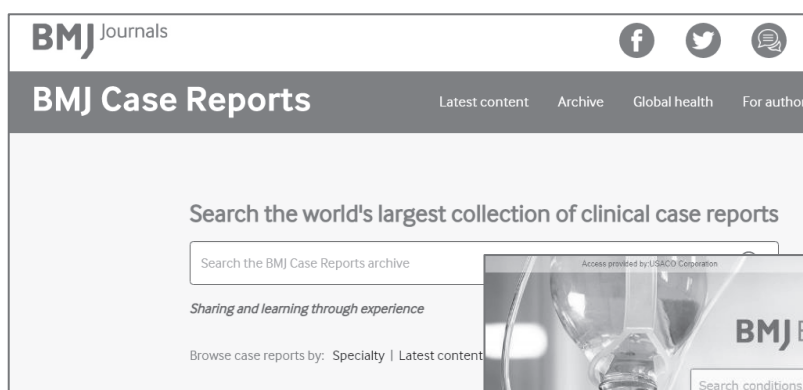
－臨床・教育の現場で役立つオンライン製品－

佐々木 陽子  
ユサコ株式会社

BMJ Group が提供する BMJ Case Reports と BMJ Best Practice をご紹介します。

BMJ Case Reports は、希少疾患を含め幅広い分野をカバーした世界最大の症例報告コレクションです。2023年1月現在、症例報告を25,000件以上収録しています。購読機関では、症例の閲覧だけでなく、投稿も無制限に可能です。BMJ Group が提供するテンプレート、シンプルなシステムを使用して、症例報告を投稿できます。投稿した症例報告はピアレビューされます。世界の臨床医、研究者にとって、症例報告の閲覧と発表の場となっています。日本からの投稿数は長年世界4位をキープしています。

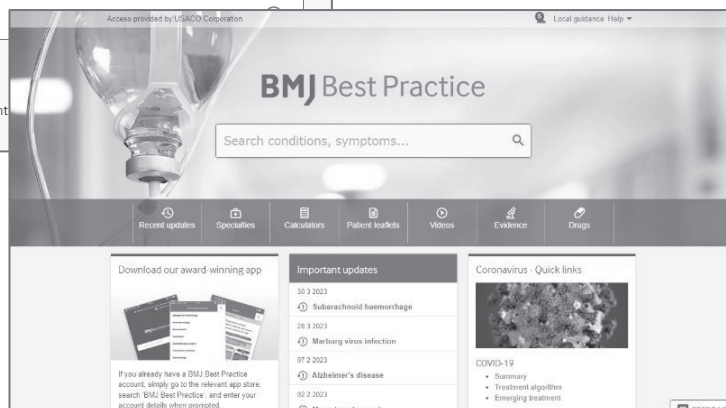
BMJ Best Practice は、エビデンスに基づいた信頼性の高い情報を提供する臨床意思決定支援ツールです。利用者は、症状に応じて行うべき検査や治療法など、臨床の場で必要となる情報を素早く参照することができます。世界の専門家1,800名が執筆を行い、専門家2,700名が査読を行っています。情報は随時最新情報に更新されています。イメージ、動画、併存症に関する情報、関連ガイドラインへのリンク、患者向けリーフレットなどが利用可能です。オフラインで利用できるアプリを使用すれば、いつでもどこでも情報にアクセスできます。



ユサコ株式会社  
BMJ Case Reports サイト



ユサコ株式会社  
BMJ Best Practice サイト



# MedOne プラットフォーム

－基礎医学・臨床医学各分野のオンライン学習ツール－

Dirk Fingerhut, 大西 里奈  
Thieme Group

MedOne は、研修医や医学生、専門医に必須の学習コンテンツを提供する、以下7つの専門分野に特化したマルチメディアプラットフォームです。医学学習者、医療従事者が忙しい中でも簡単に信頼性の高い情報にアクセスし、学習することを可能とします。

MedOne 脳神経外科	<a href="https://medone-neurosurgery.thieme.com">https://medone-neurosurgery.thieme.com</a>
MedOne 形成外科	<a href="https://medone-plasticsurgery.thieme.com">https://medone-plasticsurgery.thieme.com</a>
MedOne コミュニケーションサイエンス	<a href="https://medone-comsci.thieme.com">https://medone-comsci.thieme.com</a>
MedOne 放射線医学	<a href="https://medone-radiology.thieme.com">https://medone-radiology.thieme.com</a>
MedOne 耳鼻咽喉科	<a href="https://medone-otolaryngology.thieme.com">https://medone-otolaryngology.thieme.com</a>
MedOne 眼科	<a href="https://medone-ophthalmology.thieme.com">https://medone-ophthalmology.thieme.com</a>
MedOne Education (医学部生向け)	<a href="https://medone-education.thieme.com/home">https://medone-education.thieme.com/home</a>
※ MedOne に関して詳しい情報は <a href="https://try.medone.thieme.com">https://try.medone.thieme.com</a> をご確認ください	

MedOne は、臨床医学を学ぶ学習者が参考文献をワンストップで参照したり、学習することを目的として設計されており、ジャーナルや書籍のみでなく、著名な専門医による手術動画や症例などのオンライン学習コンテンツを数多く搭載しています。

## 【MedOne 活用例】

- ✓ 専門医：最新技術に関する情報で更なる専門スキルを習得。研究への新たな着想
- ✓ レジデント：専門医資格認定試験対策を行うための学習ツールとして。エキスパートによる手術手技・解説動画でテクニックを習得

MedOne はリモートアクセスにも対応しており、ユーザーがいつでもどこでも効率的に学習を行うことを可能とします。収録コンテンツや機能についての詳しいご説明、またトライアルのお申込みは、Dirk Fingerhut <Dirk.Fingerhut@thieme.de> または、大西里奈 <esales\_jp@thieme.de> までお気軽にお問い合わせください。



## 大学（図書館）様向け 施設予約システム — eBOOTHv.5 クラウド版 \_セルフ座席予約システム—

勝又 繁, 小林 洋美  
株式会社タック・ポート

近年、大学（図書館）内のワーキングスペースが増えていますが、ワーキング用のグループ会議室の施設予約はシステム化されていないのが現状です。

そこで弊社では、公共図書館で導入している座席管理システムの実績をもとに、クラウド版でグループ会議室や研究室などを予約から入退室まで管理できるシステムをご提供させていただきます。月額費用で使用できる仕組みとなります。



グループ会議室や研究室など、施設の空き状況を一目で分かりやすく表示し、学生は窓口で訪問して予約する必要がなく、スマホからかんたんに予約することができます。

SAML 認証を導入している大学では、シングルサインオン対応や属性情報を連携することもできます。



予約から入退室の管理まですべてセルフで運用可能となりますので、職員様も手書きで予約管理するような煩雑な業務から解放されるだけでなく、利用者は予約ができることで施設利用の待ち時間を大幅に削減できます。

弊社の施設予約システムは既に大学様に導入実績のあるシステムです。導入することにより施設の利用が身近になり、利用率を上げる効果も期待できます。又、「誰が・いつ・どの部屋を使用したか」が記録に残るため利用状況の分析にも役立ちます。

デモ・説明会等は実施させていただきますので、お声がけいただけましたら幸いです。是非この機会に、ご検討のほどよろしくお願いいたします。

# KinoDen（キノデン）のご案内

## ーコロナ禍後の電子図書館と新たな取り組みー

谷田 佑美

株式会社紀伊國屋書店 デジタル情報営業部



「紀伊國屋書店学術電子図書館 KinoDen (Kinokuniya Digital Library)」をご紹介します。

### 1. KinoDen 概要

KinoDen は、7万点以上の学術書を中心としたコンテンツを提供する図書館向け電子書籍サービスです。使いやすいインターフェイスやアプリが利用者にも大変好評です。

### 2. コロナ禍を経て

コロナ禍で電子資料の利便性が再確認され、電子図書館を採用する機関数が増えました。近年は国内外の大学図書館だけでなく、県立図書館を中心に公共図書館での導入が増えています。

・採用機関数 2019年 150機関 → 2023年 470機関

### 3. KinoDen の更なる取り組み

- ・オーディオブックの充実などアクセシビリティの向上に取り組んでいます。
- ・独自資料（地域資料など図書館が所有する資料）の搭載が可能になり、図書館の特色を出しやすくなりました。

＊ ＊その他、ブースでは弊社代理店の海外学術出版各社の最新情報をご用意しておりますのでぜひお立ち寄りください。 ＊ ＊



【お問い合わせ先】

株式会社紀伊國屋書店 デジタル情報営業部 TEL: 03-6910-0518

Email: ict\_ebook@kinokuniya.co.jp

# E-10

## 中小規模向け図書館システム「情報館」のご紹介

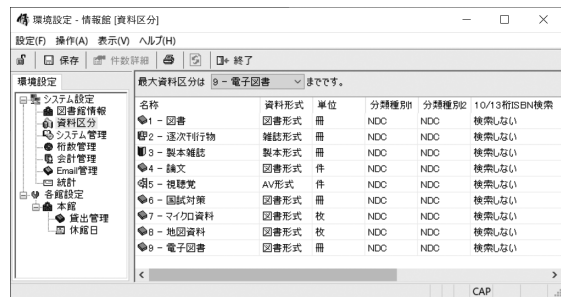
齋藤 恵, 大戸 結菜  
株式会社ブレインテック

中小規模向け図書館システム「情報館」は、資料データ登録、貸出返却管理、統計処理、各種帳票出力といった蔵書管理に必要な機能を備えたパッケージシステムです。

### 1. 業務システム

豊富なカスタマイズ機能を持ち、図書、雑誌のみならず、論文や図面など様々な資料を管理することが可能です。

2種類の分類項目が標準搭載されており、NDCと独自分類というように複数の分類記号を付与することができることから、所蔵資料のうち一部特定分野だけ割合が多くなりがちな専門図書館で多く活用されています。



最新バージョンの「情報館 ver.10」ではレファレンス管理機能が搭載されました。利用者からの日々のお問い合わせを記録し、活用することができます。

また、毎日の貸出数、データ登録数等任意の項目を記録できる業務日誌機能や、督促者がいる場合に通知を出すといった各種アラート設定機能など、スタッフ業務をサポートする機能も多数搭載されています。

### 2. OPAC

OPACは障がいをお持ちの方にも使いやすいよう、W3Cが勧告する「WCAG (Web Content Accessibility Guidelines) 2.0」の達成基準レベル「AA」相当のアクセシビリティに対応しています。

利用者の使用デバイスに応じて、パソコン用、タブレット用、スマホ用の画面に自動で切り替えます。

また、お知らせ・開館カレンダーなどの機能を持ち、図書館のホームページとして使うこともできます。さらに、オプションのデジタル資料公開機能を追加することで、PDF資料や画像を公開することもできます。



【お問い合わせ先】 株式会社ブレインテック営業窓口 Email : sales@braintech.co.jp



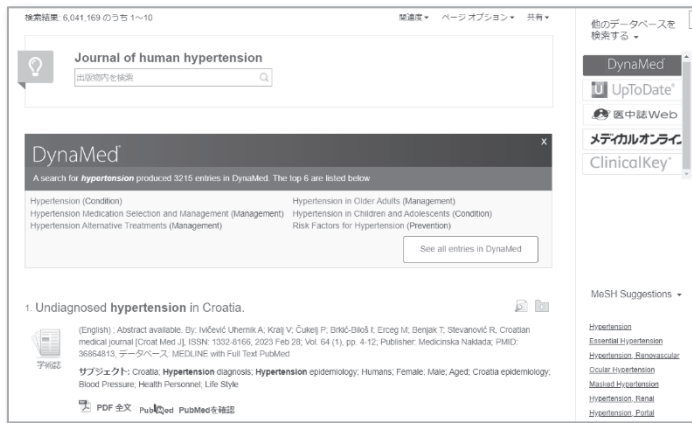
## 医療系機関向けサービスのご紹介

— 多様なコンテンツを一括検索，研究・学修を支援します —

武田 瑞希

EBSCO Information Services Japan 株式会社

# EBSCO Discovery Service™



EBSCO Discovery Service (EDS) は単一インターフェイスで紙・電子媒体の資料を，論文記事・タイトルレベルで一括検索します。

ジャーナル，図書資料ほか，臨床系ツールも検索対象に含めることができ，利用者の求める情報や情報検索の習熟度に関わらずご利用いただけます。

## DynaMed®



DynaMed は世界的評価を得ている臨床系データベースで，毎日情報が更新されます。

ブラウザの翻訳機能を使うと，最新のエビデンスを日本語で読むことも可能です。

〈お問合せ〉 電話：03-4540-7169（代表） | Email：jp-ebsohost@ebSCO.com

**EBSCO** Information Services

# 図書館システム，文献レビューアプリ，LMS のご紹介

## －日本事務器（株）教育機関向け ICT サービスのご紹介－

加藤 寛子

日本事務器株式会社 営業本部文教ソリューション部

日本事務器株式会社（以下 NJC）は、大学向け及び大学図書館向けの ICT サービスを提供しております。本大会でご紹介しておりますのは以下の 3 つのプロダクトとなります。

### 1. 大学図書館情報システム「ネオシリウス・クラウド」

ネオシリウス・クラウドは、最新のクラウド技術による高い運用性と長年の経験・ノウハウに裏打ちされた大学図書館業務・サービスに適用した使いやすい機能が特徴です。

運用を見据えた丁寧なヒアリングと導入提案により、何かと不安なシステム移行も十分にサポートいたします。

### 2. 学習支援のための文献レビューアプリ「BOOK MARRY」

BOOK MARRY は、ご所属の学生・教職員のみが閲覧・投稿できる「クローズド」な文献レビュー共有サービスです。学生にとっては、自分の大学の先輩や同級生、教員のレビューのみ参照できるため、課題に有効な資料を探す際などに、信頼のおける情報源として活用できます。効率的な文献探しのための学習支援ツールとして、ぜひお役立てください。

また、他の人のレビューを読むことで、「意識していなかったが実は興味がある」分野の発見や、魅力的な感想から本に手を伸ばす機会を生むといった、読書推進やキャリア支援の効果も期待できます。

### 3. クラウド型学習支援システム「Pholly（フォリー）」

Pholly は「どんな人でも、いつでも、どこでも、どんな端末でも」をコンセプトに、お知らせや資料配布、実技などの動画配信、出欠管理やグループワーク、そして授業後のレポートやテストなど大学向け LMS として必要な機能をオールインワンで網羅した学習支援システムです。

低コストで導入ができ、専用のスマホアプリがあるのでいつでも気軽にアクセスできます。臨地実習中の学生とのコミュニケーションツールとしても活用されています。

いずれの製品も弊社ブースにて実際にお試しいただくことが可能です。なお、それぞれ各サービスの詳細な内容については以下の HP をご参照下さい。

#### ■ 「ネオシリウス・クラウド」「BOOK MARRY」

<https://www.njc.co.jp/neocilius/>

#### ■ 「Pholly」

<https://www.njc.co.jp/pholly/>



## 医学関連電子コンテンツのご紹介

丸善雄松堂株式会社 企画開発統括部  
兼田 順平

### 【医学系和書洋書データベース】

#### ■ Maruzen eBook Library

販売タイトル数 15 万点以上，参加出版社数 330 社以上の国内最大級の電子書籍プラットフォームです。医学・看護分野は約 4 万タイトル収録，医学雑誌バックナンバーも含まれています。PDF タイプ・EPUB リフローの読み上げコンテンツや動画コンテンツも充実しています。大学出版会で発行した書籍の電子版の発売もご要望が増えて来ております。



#### ■ ProQuest Ebook Central

750 社以上から出版された 190 万点以上の洋書 eBook をひとつのプラットフォームから閲覧できるデータベースです。医学・看護分野だけでも約 13 万点以上搭載され，ご希望の出版社タイトルを 1 点から購入できます。



#### ■ Access Medicine

Harrison 等の定番医学書電子版 150 点以上の他，音声，動画，症例，Q&A 等関連情報を豊富に搭載しています。新刊の Harrison 21 版も既に電子として搭載されご利用頂けます。



Annals of Internal Medicine  
ESTABLISHED IN 1937 BY THE AMERICAN COLLEGE OF PHYSICIANS

PEDIATRICS

Mary Ann Liebert, Inc. / publishers

AMA  
AMERICAN MEDICAL ASSOCIATION

### 【丸善のお勧めコアジャーナルタイトル】

#### ■ ACP / AAP / Mary Ann Liebert / American Medical Association

世界的に最も歴史ある内科学会コアジャーナル ACP，小児関連の最高権威の学術誌 AAP，再生医療等の先端医学関連タイトルや学会の公式機関誌に定評のある MAL，アメリカ医学界で最も権威あるジャーナル AMA をご紹介致します。

### 【安価にアクセス可能なアグリゲーター系商品】

#### ■ Gale Academic OneFile 医学系

全分野の外国雑誌を提供する汎用性の高いジャーナルデータベースです。医学分野のジャーナルも多数提供，総合大学だけでなく，医療系，看護系の大学にも導入されています。



【お問い合わせ】丸善雄松堂株式会社 企画開発統括部

Tel:03-6367-6114 FAX:03-6367-6160 E-mail:e-support@maruzen.co.jp

## カーリル：図書館をもっと楽しく！

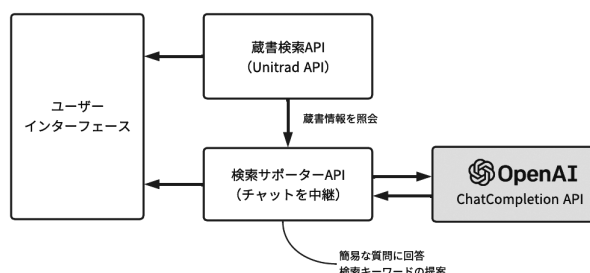
－カーリルの最近の活動を紹介します－

吉本龍司

株式会社カーリル

### ChatGPT による蔵書検索サポーター実証実験（2023年4月発表）

ChatGPTなどのジェネレーティブAIを活用した新サービスが活発に提案されています。カーリルでは、ChatGPTと図書館が提供する一般的な蔵書検索サービスを連携させる方法について検討しました。利用イメージを体験するために、蔵書検索サービスにChatGPT（OpenAI API）を組み込み、「蔵書検索サポーター」を実装することにしました。例えば、ユーザーが検索キーワードにヒットする本がなかった場合に、別のキーワードを提案したり、自然文の質問から適切な検索キーワードを提案することを想定します。現在、実際の図書館での実証実験を準備中です。



### 「カーリル 学校図書館支援プログラム」無償提供の継続が決定（2022年9月発表）

このプログラムは、これまでオンラインでは検索できなかったWeb-OPACを運用していない図書館向けに蔵書検索サービスを無償で提供するものです（便宜上、学校図書館の名称が使われていますが、公共図書館、公民館図書室、病院図書室や患者図書室などでもご利用いただけます）。感染症拡大防止のための取り組みとしてスタートしましたが、2023年5月現在までに全国で1300館以上の図書館が導入し、日々新しい図書館からの申し込みを受け付けています。サービス開始時の経緯とわかりやすさから、「学校図書館」という名称を使っていますが、病院図書室や専門図書館でも多数ご利用いただいています。詳しくは、<https://gk.calil.jp>をご参照ください。

### 情報セキュリティに関する国際規格「ISO 27001」の認証を取得（2023年2月発表）

カーリルでは、情報セキュリティ基本方針を策定し、提供するウェブサービスや社内の情報セキュリティの継続的な強化に取り組んでいます。このたび、この取り組みをさらに推進するため、情報セキュリティマネジメントシステムの国際規格である「ISO/IEC27001:2013」の認証（ISMS認証）を取得しました。

## 参加企業連絡先（50音順）

---

iJapan 株式会社 営業部

〒101-0047 東京都千代田区内神田 1-5-16 アルテ大手町 9F  
TEL:03-5577-4899 FAX:03-5577-4809 info@igroupjapan.com

---

株式会社医学書院 販売・PR部 EM販売課

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23  
TEL:03-3817-5652 FAX:03-3815-7804 em@igaku-shoin.co.jp

---

NPO 医学中央雑誌刊行会 データベース事業部

〒168-0072 東京都杉並区高井戸東 2-5-18  
TEL:03-3334-7625 FAX:03-3335-3327 info@jamas.or.jp

---

EBSCO Information Services Japan 株式会社

〒166-0002 東京都杉並区高円寺北 2-6-2 高円寺センタービル 3F  
TEL:03-4540-7169 jp-ebsochost@ebSCO.com

---

株式会社カーリル

〒509-9232 岐阜県中津川市坂下 1645-15  
contact@calil.jp

---

株式会社紀伊國屋書店 学術情報販売促進本部 雑誌部

〒153-8504 東京都目黒区下目黒 3-7-10  
TEL:03-6910-0532 FAX:03-6420-1362 journal@kinokuniya.co.jp

---

株式会社サンメディア e-Port カンパニー

〒164-0012 東京都中野区本町 3-10-3 PORT91  
TEL:03-3299-1575 FAX:03-3374-1410 e-port@sunmedia.co.jp

---

株式会社タック・ポート 横浜支店 ソリューション事業部

〒231-0011 神奈川県横浜市中区太田町 6-85 RK-Cube2F  
TEL:045-342-7301 FAX:045-342-7311 tp@tackport.co.jp

---

Thieme Group

〒150-0000 Rüdigerstraße 14, 70469 Stuttgart  
TEL:+49 711 8931 941 FAX:+49 711 8931 794 esales\_jp@thieme.de

---

日本事務器株式会社 事業戦略本部 パーチカルソリューション企画部

〒150-0000 東京都渋谷区 3-12-1 住友不動産西新宿ビル 6号館  
TEL:050-3000-1508 jisui-bunkyo-gr@njc.co.jp

---

株式会社ブレインテック

〒141-0031 東京都品川区西五反田 8-3-16 西五反田 8丁目ビル 7F  
TEL:03-4330-3655 FAX:03-4330-3656 publicity@braintech.co.jp

---

丸善雄松堂株式会社 企画開発統括部 研究ソリューション開発センター

〒105-0022 東京都港区海岸 1-9-18 国際浜松町ビル  
TEL:03-6367-6070 FAX:03-6367-6196 e-support@maruzen.co.jp

---

株式会社メテオ 営業部

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町 2-7-3  
TEL:03-5577-5877 FAX:03-5577-5878 info@medicalonline.jp

---

ユサコ株式会社 アカデミア事業部 プロダクト部

〒106-0044 東京都港区東麻布 2-17-12  
TEL:03-3505-6161 FAX:03-3505-6284 product@usaco.co.jp

---

## 発表・企画運営要領

# 口頭発表要領

## 事前準備

1. 当日の発表者は、事前に参加者のエントリーをお願いします。
2. プレゼンテーション資料は、大会前日の6月30日（金）の午前中（日時厳守）までに電子メールに添付の上、下記お問い合わせアドレスまで送付してください。配布資料がある場合は、各自でご用意ください。参加者数は早割り申込締切後に、適宜 MIS38 ウェブサイトにてお知らせします。

## 使用機器等

1. プレゼンテーション用 PC
  - ① OS: Windows10Pro
  - ② プレゼンテーションソフトウェア: PowerPoint2019
  - ③ インターネット接続可能, USB メモリ使用可能
2. 動作確認, 資料の差し替え

事前にお送りいただいたプレゼンテーション資料は、開会式までに大会実行委員が発表用 PC にコピーして、動作確認を行います。

当日、資料の差し替えをご希望する場合は、受付時に大会受付へお申し出ください。差し替えデータを保存している USB メモリにセキュリティロックをかけている場合は、解除しておいてください。
3. その他
  - ① プロジェクター
  - ② マイク
  - ③ レーザーポインター

## 発表当日の準備

1. 各セッション開始 10 分前に、発表者・モデレーター・タイムキーパーの方はご参集ください。顔合わせおよび動作確認を行います。場所はオーテピア 4 階ホール最前列の発表者席です。
2. 当日配布資料は、口頭発表会場付近に机を用意しますので、各自で置くよう願います。

## 発表に際して

口頭発表 A と C は 4 題, 口頭発表 B は 3 題で 1 つのセッションを構成します。セッションがスムーズに運営されるよう、以下の手順をお守りください。

1. セッション開始前の休憩時間中に、会場最前列に用意した席へお集まりください。
2. 発表時間は 14 分間です。演台に立った時から計測を始めます。発表の準備, 撤収は速やかにお願いいたします。
3. 計測開始から 10 分目にベルが 1 回, 14 分目にベルが 2 回鳴ります。2 回ベルが鳴った場合はすみやかに発表をやめ、モデレーターの指示に従ってください。
4. 質疑応答は 5 分間です。質問者に直接答えるのではなく、モデレーターの指示に従ってください。また、質問には正確・端的にお答えください。

## 終了後

発表者が用意した当日配布資料等は各自お持ち帰りください。

お問い合わせメールアドレス: [mis38speakers@gmail.com](mailto:mis38speakers@gmail.com)

# ポスター発表要領

## 事前準備

1. 当日の発表者は、事前に参加者のエントリーをお願いします。
2. 配布資料がある場合は、各自でご用意ください。参加者数は早割り申込締切後に、適宜 MIS38 ウェブサイトにてお知らせします。

## 当日準備

1. ポスター発表会場は、オーテピア 4 階集会室となっております。7月1日（土）の受付後、できるだけすみやかに、会場の指定した場所へ掲示してください。
2. ポスター用のボードは、貼付面の大きさが幅 88cm × 高さ 172cm1 枚です。
3. 掲示には実行委員で用意したテープ、画鋏をご利用ください。
4. 配布資料は、指定の場所へ並べるか、待機時間等にポスター前でお配りください。

## 待機時間

1. ポスター発表者は、7月1日（土）16:20～16:50、7月2日（日）10:30～11:00の間、各自のポスター掲示場所でできるだけ待機してください。参加者からの質問に対し、発表内容の説明、参加者との意見交換・質疑応答を行う時間として予定しています。
2. その他の時間帯に待機することは任意です。待機時間を変更されることは可能ですが、その場合はポスター用のボードに待機時間を明記してください。

## 終了後

1. 7月2日（日）15:40までに、速やかにポスター等を片付けてください。やむを得ず待機時間以前に撤去する場合は事前に受付までお申し出ください。
2. 資料等はお持ち帰りください。

お問い合わせメールアドレス： [mis38speakers@gmail.com](mailto:mis38speakers@gmail.com)

# 企画運営要領

## 事前準備

1. 当日の発表者は、事前に参加者のエントリーをお願いします。
2. プレゼンテーション資料は、大会前日の6月30日（金）の午前中（日時厳守）までに電子メールに添付の上、下記お問い合わせアドレスまで送付してください。配布資料がある場合は、各自でご用意ください。参加者数は早割り申込締切後に、適宜 MIS38 ウェブサイトにてお知らせします。

## 開催日時

7月2日（日） 12時50分～14時20分

## 会場

各参加者企画の会場は、4階ホール、研修室、M5学習・研究室です。  
オンライン参加者用には Zoom のブレイクアウトルームをそれぞれ準備します。

## 使用機器等

1. プレゼンテーション用 PC
  - ① OS: Windows10Pro
  - ② プレゼンテーションソフトウェア: PowerPoint2019
  - ③ インターネット接続可能, USB メモリ使用可能
2. プロジェクター及びスクリーン

## 発表当日の準備

1. 事前に実行委員会と企画運営者とで打ち合わせを行います。場所、日時は追ってお知らせします。企画運営者による動作確認は打ち合わせ終了後に行います。
2. 当日配布資料は、参加者企画会場付近に机を用意しますので、各自で置くよう願います。

## 企画運営に際して

1. 事前に打ち合わせた内容に沿って進めてください。
2. 会場のレイアウト変更等は、会場におります実行委員とともに行って下さい。
3. 当日の企画運営で困った点等ありましたら、会場の実行委員にお尋ねください。

## 終了後

1. 各会場担当の実行委員の指示に従い、会場の原状復帰にご協力ください。
2. 用意した当日配布資料等はお持ち帰りください。

お問い合わせメールアドレス： [mis38speakers@gmail.com](mailto:mis38speakers@gmail.com)



# 企業展示要領

## ◆展示日時

7月1日（土）12時00分～18時00分

7月2日（日）9時00分～15時00分

## ◆待機時間

企業展示担当者は、以下の時間、各社ブースで待機してください。

7月1日（土）16時00分～16時30分

7月2日（日）10時30分～11時00分

オンライン参加者用企業訪問時間（Zoom meeting）

7月1日（土）16時00分～16時30分

7月2日（日）10時30分～11時00分

## ◆会場

1. 会場は、オーテピア4階集会室を予定しています。  
→ (<https://otepia.kochi.jp/rental.html>)
2. 各社にご利用いただくブース位置は、申し込み順に設定させていただきますので、ご了承ください。
3. 1社あたりの展示ブース間口は180cm×奥行き180cm程度です。
4. オンライン会場（専用ホームページ）よりリンクさせる各社のホームページ、資料、動画、オンライン会議などへのURLを5月下旬までにお知らせください。

## ◆搬出入

1. 搬出入は、以下の時間帯でお願いいたします。

搬入：7月1日（土）10時00分～11時00分

搬出：7月2日（日）15時00分～16時00分

展示用機材・資料の搬入出を車で行われる方は、予めご相談ください。オーテピアの駐車場またはオーテピアが契約する周辺の民間駐車場をご利用ください（基本料金が割引となります）。駐車料金については各社様でご負担願います。

2. 宅配便を使つての機材・ブース用資料等の事前送付を希望される場合は、6月30日（金）の12時～17時（日時厳守）までに到着するように、下記宛にご送付ください。

〒780-0842

高知市追手筋2-1-1

オーテピア高知図書館4階事務室 気付

第38回医学情報サービス研究大会事務局（企業展示）宛

3. 大会終了後、宅配便を使用しての機材・資料送付を希望された機関は、7月2日（日）16時頃の集荷を予定していますので、それまでに荷造りの準備をお願いいたします。なお、宅配便は着払い伝票にて処理させていただきますので、ご了承ください。

#### ◆参加者向け組込み資料

1. 事前にご送付いただいたものを参加者向け配布物に組み込みます。1社につき1資料までとさせていただきますので、ご了承ください。
2. 参加者向け配布物に組み込みを希望する資料については、6月23日（金）12時までに到着するように下記宛でご送付ください。

〒781-1102

高知県土佐市高岡町乙1139-3

高知リハビリテーション専門職大学図書館 依光朋子 宛

3. 参加者数は5月下旬にお知らせいたします。
4. 他の資料との同梱をご遠慮ください。
5. 当日の配布は、各社ブースの他、配布物コーナーをご利用ください。

#### ◆販促品の郵送

1. チラシ等の配付を希望される場合、大会グッズとともにオンライン参加者へ郵送いたします。参加者1名につきチラシ1枚+100g以下のグッズ（任意）
2. 郵送を希望する場合は、6月16日（金）までに到着するように下記宛でご送付ください。

〒781-1102

高知県土佐市高岡町乙1139-3

高知リハビリテーション専門職大学図書館 依光朋子 宛

3. 参加者数は5月下旬にお知らせいたします。
4. 他の資料との同梱をご遠慮ください。
5. お申込みが多い場合、早めに受付終了することがあります。ご了承ください。

#### ◆展示設営物品

1. 長机1台、椅子2脚を貸与いたします。パネルの貸与はございません。必要な場合は、各社でご用意ください。
2. 室内に電源コンセントがございますが、電源延長ケーブル（OAタップ等）は、各社でご用意ください。また、大型モニターや熱を発する電気製品など、多くの電力を消費する機材の使用を希望する場合は、予めご相談ください（使用できる電力量に制限があります）。
3. 会場のWi-FiやLAN設備はご利用いただけません。インターネットをご利用の場合は、各社でご用意ください。

#### ◆シールラリー

多くの参加者にブースへ足を運んでもらえるよう、シールラリーを開催する予定です。各社様には、参加者が持っているシールラリー帳へのシール貼付をお願いいたしたく、ご協力をお願い申し上げます。

#### ◆その他の注意事項

1. 企業展示をお申し込みされた方は、最初に受付を済ませてください。その際、名札を配布しますので、着用をお願いいたします。
2. 各出展についての管理は出展者が責任を持つものとし、以下の諸注意を遵守いただくようお願いいたします。

※他のブースに迷惑のかかるような行為は慎んでください。

※会場での梱包材の廃棄等はできません。各社お持ち帰りいただくようお願いいたします。

※来場者名簿を利用しての後日の電話勧誘等はお控えください。

※ブースやプロダクトレビューでの商品案内で、第三者との権利が絡むものについては、出展企業が第三者に事前に許諾を得るなどして、解決してください。

※会場でのコピーはできかねますので、ご了承ください。

※宅配便を使用した展示用機材・資料の送付及び保管における故障や盗難について、大会事務局では一切の責任を負うことはできませんので、ご了承ください。

#### ◆お問い合わせメールアドレス：mis38exhibition@gmail.com

# プロダクトレビュー要領

## ◆事前準備

1. プロダクトレビューに関わる資料は、参加者向け配布物に組み込み可能です。  
6月23日（金）12時までに到着するように、下記宛にご送付ください。  
〒781-1102  
高知県土佐市高岡町乙 1139-3  
高知リハビリテーション専門職大学図書館 依光朋子宛
2. プロダクトレビューに関わる資料で、複数資料の組み込みを希望される場合は、クリアファイルや封筒等で1人分ずつに分けた上で、お送りください。
3. 参加者数は5月下旬にお知らせいたします。
4. 他の資料との同梱はご遠慮ください。
5. 当日の配布は、各社ブースの他、配布物コーナーをご利用ください。
6. 発表用 PC は、大会事務局が用意します。プレゼンテーション資料は、以下の情報を参考にご用意ください。なお、持込 PC での発表を希望する方は、事前にご相談ください。

発表に際し、大会事務局が用意する使用機器は以下のとおりです。

### (1) 発表用 PC

- OS : Windows10Pro
- プレゼンテーションソフトウェア : PowerPoint2019
- インターネット接続可能, USB メモリ使用可能

### (2) その他

- プロジェクター, マイク, レーザーポインター
- 上記以外に希望される機器等がありましたら、事前にご相談ください。

## ◆大会当日の準備

1. プレゼンテーション資料は、下記の日時で発表用 PC にコピーしていただきます。  
7月1日（土）10時30分～11時00分  
7月2日（日）10時30分～11時00分
2. 会場は、オーテピア4階ホールを予定しています。  
場所はこちらをご覧ください。→ <https://otepia.kochi.jp/rental.html>

## ◆発表に際して

1. 日時は7月1日（土）15:30-16:20 及び 7月2日（日）11:00 - 11:50です。
2. 上記の時間帯で2日に分けまして13社が実施しますので、お間違えのないようご確認ください。会場でもオンラインでもZoomのミーティング機能を利用します。  
スムーズに進行されるよう、以下の手順をお守りください。
  - プロダクトレビュー開始前の休憩時間中に、会場最前列に用意した席へお集まりください。

- 発表時間は7分間です。終了時間となったところで、次の企業に交代していただきます。発表の準備、撤収は迅速にお願いいたします。
- 質疑応答はいたしません。企業展示コーナー等で受け付けてください。
- 発表時間にすべての内容を盛り込むのではなく、展示会場へ足を運んでもらうきっかけとなるようなプレゼンテーションを実施していただけますと幸いです。

#### ◆プロダクトレビュー順

7月1日（土）15時30分～16時20分

1. 株式会社サンメディア
2. 株式会社メテオ
3. iJapan 株式会社 /iGroup Japan
4. NPO 医学中央雑誌刊行会
5. 株式会社医学書院
6. ユサコ株式会社
7. Thieme Group（オンライン）

7月2日（日）11時00分～11時50分

8. 株式会社タック・ポート
9. 株式会社紀伊國屋書店
10. 株式会社ブレインテック
11. EBSCO Information Services Japan 株式会社
12. 日本事務器株式会社
13. 丸善雄松堂株式会社（オンライン）

◆お問い合わせメールアドレス：[mis38exhibition@gmail.com](mailto:mis38exhibition@gmail.com)

# Learning from each other!

## 医学情報サービス研究大会をより充実させるために

### 1. “Learning from each other!” に込められた思いとは

生命科学系の情報専門家として仕事をしていくためには、必要な知識とスキルを学びあうだけでなく、大きく変化する社会状況のなかで、専門職としての役割を再定義していく努力が求められる。医学情報サービス研究大会は、その努力の成果を試すひとつの場といえる。なぜなら医学情報サービス研究大会の特徴は、年齢、所属機関、性、地域、肩書きなどの違いをこえ、学びあうことに熱意を持ち、率直に交流し、問題解決の方法を求め、そして職業人としての向上を目指す人々が集う点にあるからである。つまり、医学情報サービス研究大会が掲げる “Learning from each other!” には、「参加者の所属機関・肩書きを意識しない」、「学びあう」、「自覚的に参加する」という思いが込められている。

医学情報サービス研究大会には、毎回参加する人、久しぶりに参加する人、初めて参加する人、発表する人、発表を聞きたい人等、様々な人がいるが、“Learning from each other!” に込められた思いを理解していただければ、たとえひとりで参加したとしても、医学情報サービス研究大会で有意義で心地よい時間を共有することができる。

### 2. 参加の目的

医学情報サービス研究大会とは、その名の通り、研究発表の場である。したがって医学情報サービス研究大会に参加する目的は、研究発表をすることであり、研究発表を聞くこととなる。

この参加目的を達成させ、より充実感を味わうために、発表者、聴衆、モデレーターに以下のことを提案したい。

### 3. 発表者

発表は自分の研究成果を問う場所である。ひとりでも多くの聴衆に自分の研究を理解してもらえよう、発表の仕方を工夫しよう。

#### 3.1. 発表に際して

##### (1) 発表の内容

- 既発表の内容でも許容できるが、大会参加者に興味ある視点から発表しよう。
- 持論を展開するだけでなく、データや文献等で裏付けを得て、より客観的な分析・考察をしよう。
- 宣伝的な内容に終始しないようにしよう。

##### (2) 発表の形式

- 医学情報サービス研究大会の発表では、“口頭発表”と“ポスター発表”が設けられることが多い。それぞれにメリットがあり、向いている形式を選択する。

### 3.2. 口頭発表

- (1) 研究の目的と結論を明確にしよう。
  - 研究の目的と結論を分かりやすく伝えるために、発表を組み立てよう。
- (2) 研究の目的と結論に沿った説明をしよう。
  - 発表では、調べたことのすべてを説明する必要はない。研究目的と結論を理解してもらうため、必要なことのみを端的に説明しよう。
  - 問題の背景や先行研究を丁寧に説明すると、どうしても長くなりがちである。時間配分を考えて、勇気をもって割愛することも大切である。
- (3) 発表時間を守ろう。
  - 発表時間は必ず発表要領で確認して、時間内に収まるように構成しよう。
  - ベルが 1 回鳴ったら：まとめに入る。
  - ベルが 2 回鳴ったら：いったん終了して、モデレーターの指示に従う。
  - 発表終了後に質疑応答。

#### <口頭発表のコツ>

##### 準備

- 発表要領で、用意されるパソコン環境とインターネットの有無を確認しておこう。
- スライドは、シンプルな画面構成を心がけよう。目的から結論に至るまで、分かりやすい文脈を考えよう。
- アニメーションはなくてもよい。使う場合は発表で効果的になるようにしよう。
- リハーサルをして、スライドを見て条件反射で説明ができるようになろう。声を出すことも大事。同僚・家族などに聞いてもらおう。

##### 発表

- 緊張・不安は誰にでもある。少なくとも医学情報サービス研究大会では、怖れる必要はない。
- 原稿を用意して、読み上げても構わない。
- 発表姿勢がよいと、発表の印象もよくなる。
- 時間内に 2, 3 回会場を見渡して、聴衆の反応に目をやるとよい。

##### 質疑応答

- 質問にはシンプルに答えよう。分からないことを無理に答える必要はない。
- 学術研究の世界では、クリティカル・シンキング（批判的思考）が一般的である。そのため、発表に対して批判的な質問をされることもある。それはあなた個人を批判しているのではないので、質問に対し真摯に回答しよう。
- 質問を怖れない。感謝する気持ちで答えよう。

##### 発表をより充実させるため

- 発表内容を論文にしてみよう。
- 発表は経験こそが上達の極意。ぜひ継続しよう。



### 3.3. ポスター発表

- (1) ポスターで、発表内容を自由に表現しよう。
  - 発表で伝えたい、研究の目的と結論を明確にしよう。
  - 口演発表と同様に、すべてのことは伝えられない。研究の目的と結論を分かりやすく伝えるため、内容とデザインを検討しよう。
- (2) 決められた大きさを守ろう。
  - 所定のパネル内に収まるように工夫しよう。
- (3) 説明を明解・明確にしよう。
  - 文字を減らしてできるだけ図示して、短時間で理解してもらえる工夫をしよう。
  - ポスターは“ぱっと見”の印象が大切。参加者に足をとめていただき、読んでもらえる構成を心がけよう。

#### <ポスター発表のコツ>

##### 準備

- 大判印刷ポスターでも、コピー用紙を複数枚貼る構成でも、どちらでも構わない。
- 事前に完成させたポスターを持ち込むため、万が一に備えてバックアップを考えよう。(USB でデータを持参、Web mail にファイルを投稿等) 修正液・サインペン・色鉛筆等があると、軽微な修正ができる
- 発表に必要なパネルや画鋏は、実行委員会が用意する。指定された場所・時間内に、所定の場所に掲出しよう。

##### 発表

- “ポスター発表ダイジェスト”という、口頭発表の時間が設けられることがある。
- 限られた短い時間では、すべてを説明することはできない。ポスターを見に来てもらう呼びかけに徹しよう。

##### 質疑応答

- “発表者待機時間”が設定されていれば、決められた時間にポスター前に立とう。
- 口頭発表と異なり、一対一で納得のいくまで話し合える利点がある。
- 興味のある方だけが質疑応答に来るので、気負わず挨拶や声がけをしよう。できれば名刺交換も。質問を怖れず感謝する気持ちで、ポスターを見ながら納得いくまで議論しよう。
- 同じ質問が繰り返される場合、根本的な問題か、単なる説明不足かもしれない。分からないことは、逆に質問してみよう。教わることは恥ずかしいことではない。

##### 発表をより充実させるため

- 発表内容を論文にしてみよう。
- ポスターで言いたかったことを、文章にして説明しよう。

#### 4. 聴衆

質問は、発表に対する理解を深めるために行います。発表者、そして自分以外の聴衆にも分かりやすい質問を心がけよう。

(1) まずは名乗ろう。

- 挙手して、モデレーターから指名されたら、所属先と氏名を名乗ろう。

(2) 質問は明確にしよう。

- 質問かコメントかを最初に述べて、1回にひとつだけにしよう。
- 質問の前に持論を展開することはせず、聞きたいことを明確に述べよう。
- モデレーターの指示に従って質問しよう。

(3) 興味を持ったら、質疑応答の時間以外にも、発表者に質問してみよう。

- 休憩時間や懇親会なども、質問のチャンスとして活かそう。

#### 5. モデレーター・タイムキーパー

モデレーターが発表者・質問者の発言を指揮することにより、発表のクオリティも変わる。発表者・質問者が独断に走らないよう、上手にコントロールしよう。

(1) セッションを把握しよう。

- 大会抄録でセッションのテーマ、発表者名のヨミと所属、演題内容を確認しよう。
- セッション発表者が緊張しているか、問題を抱えているか、事前の打ち合わせを通して把握しておこう。

(2) 発表の時間を守ろう。

- セッションに設定された時間を把握しよう。
- タイムキーパーは、規定された時間どおりにベルを鳴らそう。ただし、規定時間内に発表が終了した場合は鳴らさない。
- 時間内に終わらない場合は、モデレーターが一度制止して、対応を指示しよう。
- すぐ終わりそうなら、多少の延長を認める。
- 終わりそうにないなら、いったん止めてもらい、継続・終了を指示する。

(3) 質問の交通整理をしよう。

- 質問、回答はモデレーターの指示のもとで行うようにしよう。
- 聴衆を無視しない（発表者と質問者で勝手に盛り上がらない）ようにしよう。
- 質問者の発言が長い場合や内容の要領を得ない場合は、質問者に注意しよう。
- 質問や回答が脱線しないよう制御して、分かりにくい場合は要約しよう。

(4) 質疑応答を活発にしよう。

- 質問が出なかった場合、可能であれば、モデレーターから質問しよう。

## 6. 参考文献

- 黒木登志夫. 知的文章とプレゼンテーション (中公新書 2109). 東京:中央公論新社; 2011.
- 堀口安彦. 発表が楽しくなる! 研究者の劇的プレゼン術:見てくれスライド論&よってらっしゃいポスター論と聴衆の心をつかむ講演技術. 東京:羊土社; 2013.
- 渡部欣忍. あなたのプレゼン誰も聞いてませんよ!: シンプルに伝える魔法のテクニック. 東京:南江堂; 2014.
- 今泉美佳. ポスター発表はチャンスの宝庫!: 一歩進んだ発表のための計画・準備から当日のプレゼンまで. 東京:羊土社; 2003.
- 宮野公樹. 学生・研究者のための伝わる! 学会ポスターのデザイン術: ポスター発表を成功に導くプレゼン手法. 東京:化学同人; 2011.
- Thomas A. Lang. 宮崎貴久子; 中山健夫訳. トム・ラングの医学論文「執筆・出版・発表」実践ガイド. 東京:シナジー; 2012.
- MIS31 名古屋大会実行委員会 「“ QOL” for MIS31 ~学びの質を高めるために~」 [internet]. [http://mis.umin.jp/31/pdf/MIS31QOL\\_20140224.pdf](http://mis.umin.jp/31/pdf/MIS31QOL_20140224.pdf), <http://www.slideshare.net/satomikojima750/mis31-qol-20140224-34934408> [accessed 2022-06-04]

2023年4月  
医学情報サービス研究会幹事会

## 実行委員からのごあいさつ

### 大会実行委員長：諏訪 有香（高知学園大学高知学園短期大学図書館）



MIS38にご参加いただき、誠にありがとうございます。  
高知でMISをやりたい！その思いだけで突っ走って参りました。実行委員長を引き受けたのも、「神輿は軽い方がよかろう」というだけで、あれこれ考えているときっと動けなかったでしょう。軽いけどへちへ行きがちな私と今日まで共に歩んでくれた実行委員の皆様、企業の皆様、発表者・企画者の皆様、お力添えくださった皆様、参加してくださった皆様に心から感謝します。この大会が皆様にとって素晴らしいものとなりますことを願っています。

### 大会事務局長・会計・企業担当：依光 朋子（高知リハビリテーション専門職大学図書館）



高知で開催が決まってから、あっという間に日々が過ぎていきます。今年の夏は、皆さまに高知で直接お会いできることを楽しみにしています。オンラインでご参加の皆さまにも高知の風を感じていただけるよう頑張ります。MISは、研究熱心な姿勢や、人と人との繋がり、などなど学ぶことばかりです。初めて参加した時は知り合いもなく、緊張しながら東京へ向かったこと。台風の影響で、弾丸北海道になったこと。発表の際にお声をかけていただけてとても嬉しかったこと。参加する度にエピソードが増えていくのもMISならではのようです。高知初開催のMISでも学びと素敵な出会いがありますよう、実行委員一同励みます。ぜひ高知を満喫してってください。

### 懇親会・イラスト担当：畠中 智恵子（高知学園大学高知学園短期大学図書館）



2022年4月から現在の図書館に勤務しておりますが、入職して間もなくMIS38の実行委員であることを告げられ（笑）、MIS初参加で懇親会を担当させていただきます。  
高知は今、朝ドラ「らんまん」の牧野富太郎ブームで盛り上がっております。富太郎は下戸だったようですが、私も同じくお酒を飲むと任務を遂行できなくなるかもしれません。その代わり、高知の宴会には「べろべろの神さま」という、お酒が好きで正直な神さまが降りてきますので、皆様どうぞ美味しい鱈とお酒を囲んで大いにご歓談ください。  
龍馬と富太郎のふるさと高知でお待ちしております♪

### 抄録・プログラム担当：池 由美子（高知大学学術基盤図書館医学部分館）



医学部分館へ異動して1年目、はりきってコア研修に参加したものの、医学系の高度な専門性になすすべもなくうなだれているところへ、実行委員長の諏訪さんから「高知でMISを開催しよう」と声をかけられたのは4年前のこと。当時「無理無理無理無理…」と心の中で大絶叫しておりましたが、無事この日を迎えることができました。感無量です。当日はガラガラの炎天下か、激しい嵐かわかりませんが、なにはともあれ高知の夏をご堪能ください。高知にお越しくくださった皆様も、オンライン参加の皆様にも高知の熱気が伝わる大会になれば幸いです。皆でMISを盛り上げましょう。よさこい祭りに負けないぞ～。

### 抄録・プログラム担当：神保 有紀（高知大学学術基盤図書館医学部分館）



MIS38へのご参加、ありがとうございます。  
お時間を作ってご参加くださった方々、発表のためにご尽力くださった方々、皆様にとって、思い出となる大会にすべく頑張りたいと思います。  
夏は高知を満喫するのに最高の季節です。おいしいお料理、日曜市にネイチャーアドベンチャー。観光情報にご興味がある方はいつでもお声かけ下さい。私もこの大会で、皆様に医療情報をはじめ、いろいろと教えていただけるかと楽しみにしています。

**企業担当：増田 徹（高知県立大学総合情報センター池図書館）**



高知に来て2年ですが、ご縁があり、高知大会をお手伝いすることになりました。初のWeb開催となった前回大会に参加しましたが、最後画面の向こうで事務局の方の目に涙が光ったように見えました。その意味するところは私などの想像の及ばないところですが、MIS34の際にお手伝いをさせていただきました私にとって、大変共感するものがありました。年に一度いろいろな思いで人々が集うこの大会、今回もまたよいものになるよう願っています。

**参加者担当：吉本 悠子（高知県立大学総合情報センター永国寺図書館）**



今回お誘いをいただき、MIS38 実行委員として貴重な経験を積ませていただいております。実行委員のみなさま、会場でお会いさせていただきみなさまと今後も末永いご縁ができることを願っております。高知の夏は本当に暑いので、熱中症にはくれぐれもご注意のうえ、楽しみながら交流を深めていただければ幸いです！どうぞよろしくお願いいたします。

**参加者担当：濱野 淳子（高知医療センター図書室）**



私はコロナ禍に現在のところに配属になり、同じ市内ですら他の機関の方とお会いする機会がなく、「ちんまり」（「こんまり」ではありません。）しておりました。そんな時、MIS38の実行委員のお誘いをいただき、本当に嬉しくて！全国から来て下さる皆様と、高知の実行委員の皆さんとのご縁は、私自身の財産になることと思います。いやTakeだけではだめです、小さくてもGiveができるよう成長できるMIS38への参加としたいと思います。とても楽しみにしています！

**グッズ担当：森 笑（土佐市立市民図書館）**



公共図書館に勤務しておりますが、前職（？）が「イベントや」であることを買っていたのか、実行委員長の諏訪さんにお声がけいただき、MISの実行委員に混せていただきました。高知大会の準備にあたり、MIS37 岩手大会にZoom参加させていただいてから、『医学情報サービス研究大会』の（個人的）イメージからは想像もできなかった、みなさまのMISへの愛をひしひしと感じております。プレッシャーもありますが、実行委員にも、ボランティアスタッフにも、ご参加のみなさまにも、お持ち帰りいただける「お土産」がたくさんある大会になりますように！

**会場担当：鈴木 章生（高知県立図書館）**



コロナ禍を乗り越え、久しぶりの対面開催となるMIS38。NHKの朝ドラでも当県が注目されている今年、オーテピアにみなさまをお迎えできることをとてもうれしく思います。全国規模の図書館関係の集会は、コロナ禍となる前以来、久しぶりの開催です。みなさまにとって記憶に残る大会になるよう、そして、高知の魅力をより感じていただけるように、精一杯努めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



## ロゴマークについて

県外の方が高知と聞けば、真っ先に「鰹のタタキ」をイメージすることでしょう。ロゴデザインは、友人でもある「万美デザイン室」の坂本万恵さんに依頼しました。高知ならではの厚切りタタキにニンニクの目玉がついた愛嬌あるロゴマークです。

また、抄録集の表紙は、鮮度が勝負の「塩タタキ風」にアレンジしてもらいました。ほんのりと薫焼きの香りを感じませんか？ 実物はぜひ懇親会でご賞味ください。

ロゴマーク担当 畠中智恵子

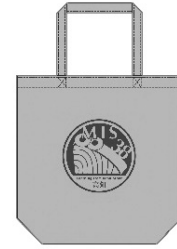


ロゴマークをみながら晩酌する諏訪委員長

## 大会グッズのご紹介

### ① トートバッグ (950 円／限定色グレー)

参加賞としてお配りするトートバッグと色違い！  
ちょっと珍しい、グレーのバッグです。



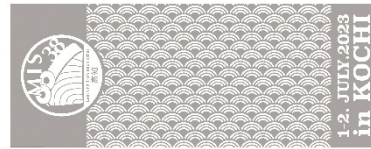
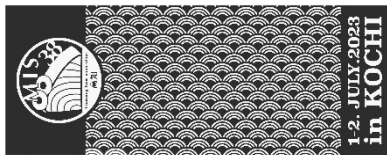
### ② Tシャツ (2,200 円／全 3 色 サイズ M/L)

スタッフ T シャツと同じ情熱高知のえんじ色は稀少品！早い者勝ちです。  
他、使いやすいグレーとジャパンプルーは色違いで揃えたい！  
こだわりのバックプリント仕様です。



### ③ 手ぬぐい (1,500 円／全 2 色)

暑い高知の夏に必須！高知の思い出に、青海波 + MIS38 デザインを！



### ④ クッキー (10 個入り／ MIS ロゴプリント)

MIS38 のロゴ入りクッキー。お土産はこれで間違いなし！  
デザインは当日のお楽しみ！

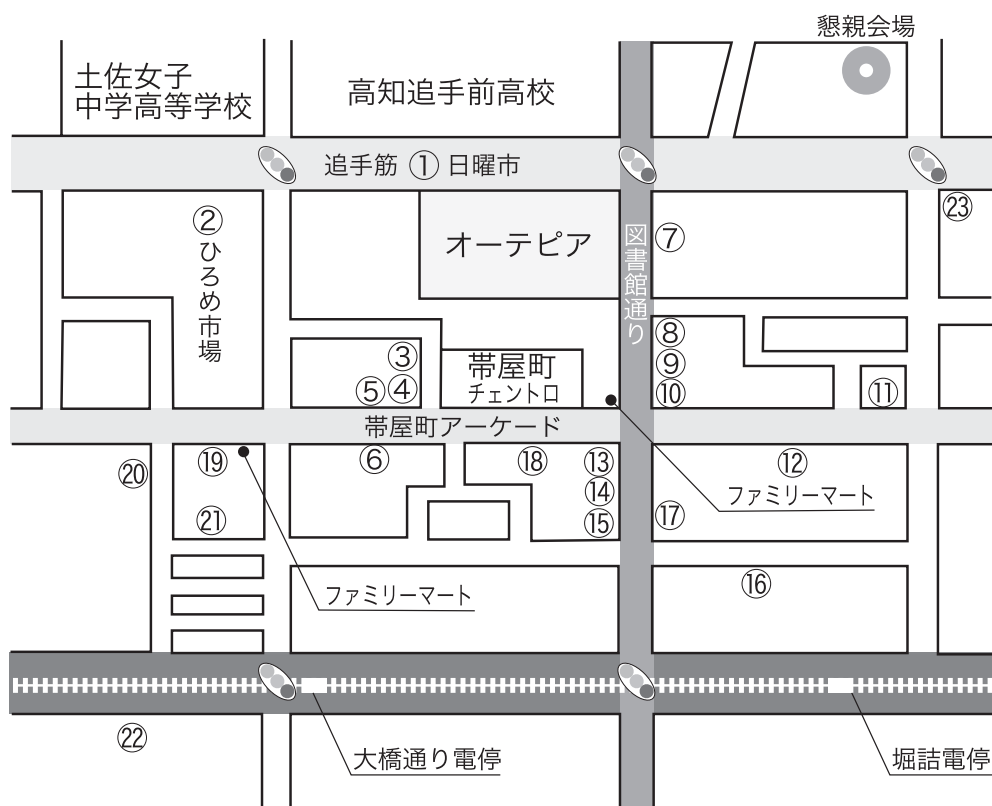
### ⑤ 完全天日塩「Ginzo Salt」

太陽と風の力のみで海水から大切に育てた天日塩は驚きの風味。  
食材の良さを最大限に引き出します。  
どんな人にも喜ばれる高知のお土産です。



グッズ担当 : 森 笑 (土佐市立市民図書館)  
畠中 智恵子 (高知学園大学高知学園短期大学図書館)





- ① 日曜日
  - ・田舎寿司・芋天・野菜・果物・干物
- ② ひろめ市場
  - ・やいる亭 (鯉たたき)
  - ・本池澤 (土佐料理・うなぎ)
  - ・明神丸 (鯉たたき)
  - ・豚バル デュロック (四万十ポーク)
  - ・ええとこどり (地鶏専門店)
  - ・プティ・ヴェール (土佐あかうし)
- ③ ビポー (パンとコーヒー)
- ④ スターバックスコーヒー (コーヒー・カフェ)
- ⑤ 帯や勘助 (和食)
- ⑥ 明神丸 帯屋町店 (鯉たたき)
- ⑦ サロン・ド・テ・クーデシャ (ケーキ・カフェ)
- ⑧ 帯屋町坊乃 (日替わり御膳・カレー)
- ⑨ ネグリタ (ケーキ)
- ⑩ 三木ドゥーブル (フレンチ・洋食ランチ)
- ⑪ たも屋 帯屋町店 (セルフうどん)
- ⑫ マクドナルド 帯屋町店
- ⑬ マツヤ (ケーキ)
- ⑭ ラ・プティパレ (コーヒーとケーキ)
- ⑮ ちづる庵 (そば)
- ⑯ IL piatto (イルピアット) イタリアン
- ⑰ コックドール (老舗洋食)
- ⑱ 土佐茶カフェ (和食 日替わりランチ)
- ⑲ 毎日屋 大橋通店 (地元スーパー)
- ⑳ せいる (うなぎ)
- ㉑ 松岡かまぼこ (天ぷら 惣菜)
- ㉒ ラ・ヴィータ (イタリアン)
- ㉓ らーめんチョンマゲ (ラーメン・玉子焼きめし)

MEMO

## 大会関連データ

# 医学情報サービス研究大会の組織と運営

1984年に、東京都養育院講堂で第1回図書館情報サービス研究大会を開催しました。この大会は、病院図書室研究会、ライフ・サイエンス図書館員研究会、日本端末研究会、生物医学図書館員研究会の4団体による合同研究大会として出発し、第3回札幌大会からは、独立した研究会として運営されるようになりました。第10回大会から、大会名称を医学情報サービス研究大会に変更し、医学、薬学、歯学、看護学、保健などの生命科学関連領域の情報サービスを中心に、専門性をより深く追求してまいりました。

2020年はコロナ禍により第37回大会を開催延期とし、2021年はオンラインで「MIS2021講演会」を開催しました。2022年は延期した第37回大会を、岩手からオンラインで開催しました。これほどまでも長く続けてこられたのは、会員制度をとらず、参加される一人一人の方々の自覚と意欲によって形成されている点にあります。参加者は、所属機関を越えて自覚的に個人として集まります。会場では、それぞれが時には講師、時には受講者となって学び合います。『Learning from each other!』精神のもと、参加者も自然と運営に関わる手作りの研究大会であることが、継続してきた最大の理由と思われる。

医学情報サービス研究大会の基本運営は幹事会で検討されていますが、実際の大会運営は、各回の実行委員会に委ねられております。実行委員会は毎回リセットされるため、大会プログラムもその回ごとに異なります。その結果、研究大会そのものが、常にリフレッシュされていることも、特徴のひとつといえます。

インターネットを介した情報技術の進歩により、社会は大きく変化しました。生命科学関連領域の教育・研究・臨床もその影響を受け様変わりしています。そのため情報サービスを提供する我々自身も、新しい知識や技術を取得・吸収しなければなりません。本研究大会は、その手助けができる場所として、今後とも発展させていくつもりです。

## ■医学情報サービス研究会幹事会

### 代表幹事

児玉 関 (大妻女子大学教職総合支援センター)

### 幹事会メンバー

青木 仕 (國學院大學文学部日本文学科)

阿部 信一 (東京慈恵会医科大学学術情報センター)

及川 はるみ (聖路加国際大学学術情報センター図書館)

大谷 裕 (東邦大学医学メディアセンター)

小野 理奈 (東京工業大学研究推進部情報図書館課)

城山 泰彦 (順天堂大学本郷・お茶の水キャンパス学術メディアセンター)

黛 崇仁 (東邦大学医学メディアセンター)

谷澤 滋生 (特定非営利活動法人日本医学図書館協会中央事務局)

### 歴代代表幹事・大会長 [所属表記は代表幹事退任時]

後藤 久夫 (東京都福祉局福祉部)

井出 唯敬 (兵庫医科大学)

山崎 茂明 (愛知淑徳大学文学部図書館情報学科)

青木 仕 (順天堂大学図書館)

ご意見やご要望などございましたら、私たち幹事会メンバーまでお知らせください。

# 医学情報サービス研究会会則

(名称)

第1条 本会は、医学情報サービス研究会という。

(目的)

第2条 本会は、個人単位の自由な集まりを原則とし、参加者自身の研究発表による知識の共有と交流の場を提供することによって、各自の資質向上を図り、もって情報サービスの発展に貢献することを目的とする。

(活動)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる活動を行う。

- ① 年1回「医学情報サービス研究大会」を開催する。
- ② その他必要と認められる活動を行う。

(会員)

第4条 本会は、特に会員制度を有しない。

(代表及び幹事)

第5条 本会に代表一人及び幹事若干人を置く。

- 2 代表及び幹事の任期は1年とし、再任は妨げない。

(定例会)

第6条 代表は、毎年1回定例幹事会を招集する。

- 2 定例幹事会は幹事の5分の4の出席をもって成立する。
- 3 定例幹事会では、本会の運営に関する重要事項を協議する。

(研究大会)

第7条 年1回「医学情報サービス研究大会」を開催する。

- 2 開催地及び大会実行委員長は定例幹事会において決定する。
- 3 研究大会開催の経費の一部は、研究会より交付し、その他は参加費で賄うものとする。
- 4 その他については、別に定める。

(経費)

第8条 本会の経費は「医学情報サービス研究大会」の参加費、及び出版物の販売の益によって賄うものとする。

(事務)

第9条 本会の事務は、代表または幹事の属する図書館(室)において処理する。

(雑則)

第10条 この会則に定めるもののほか、本会に関し重要な事項は別に定める。

付則

この会則は、平成2年6月16日から施行する。

付則

この会則は、平成4年12月1日から施行する。

# 医学情報サービス研究大会の足跡 (1)

## ■ 図書館情報サービス研究大会 (第1回～第9回)

回	開催年月日	開催地 (当時)	会場施設	参加者	企業	実行委員長	事務局長	天気 (2日分)
1	1984年6月2日～3日	東京都板橋区	東京都養育院 講堂	165名	-	後藤久夫	山崎茂明	晴 曇
2	1985年6月1日～2日	大阪府枚方市	大阪歯科大学 5階講義室	130名	-	井出唯敬	木下順一	曇
3	1986年6月28日～29日	北海道札幌市中央区	札幌医科大学 臨床教育研究棟大講堂	126名	-	野口迪子	中山純一	曇
4	1987年6月6日～7日	岡山県倉敷市	川崎医科大学 現代医学教育博物館	141名	-	湊泰子	河口澄子	晴
5	1988年6月25日～26日	東京都板橋区	東京都養育院 講堂	184名	-	後藤久夫	奈良岡功	雨
6	1989年6月10日～11日	大阪府大阪市中央区	大阪市立労働会館 小ホール	125名	-	殿崎正明	安藤孝幸	曇一時雨 曇一時雨後晴
7	1990年6月16日～17日	静岡県浜松市	リエート浜松 ホール	142名	6社	熊谷健治	山口直比古	曇時々雨 晴
8	1991年6月22日～23日	鳥取県米子市	鳥取大学医学部 記念講堂	100名	5社	宍道勉	青木仕	薄曇 曇一時雨
9	1992年5月30日～31日	京都府京都市山科区	京都市東部文化会館	209名	6社	岩本博 (兼任)	雨後雲	雨後雲 晴時々曇

## ■ 医学情報サービス研究大会 (第10回～第20回)

回	開催年月日	開催地 (当時)	会場施設	参加者	企業	実行委員長	事務局長	天気 (2日分)
10	1993年6月19日～20日	東京都文京区	順天堂大学 有山記念館 3階講堂	203名	-	奈良岡功	青木仕	雨一時雲 曇一時雨
11	1994年6月18日～19日	岩手県盛岡市	岩手医科大学 医学部臨床講堂および図書館	142名	3社	藤原紀子	金野早苗	晴後一時薄雲 曇
12	1995年7月1日～2日	長崎県長崎市	長崎大学医学部 第1講義室	95名	6社	喜多芳明 (兼任)	雨, 雷を伴う	曇一時晴 雨, 雷を伴う
13	1996年6月29日～30日	愛知県名古屋市中種区	愛知県がんセンター 国際医学交流センター	206名	6社	熊谷健治	安田多香子	晴一時雲 曇一時雨後晴
14	1997年6月21日～22日	東京都文京区	東京医科歯科大学 5号館講堂	240名	10社	安藤越代	石井保志	晴後曇 曇一時雨
15	1998年6月20日～21日	鳥取県倉吉市	鳥取女子短期大学 A館 3階 309教室	104名	5社	上田京子	野原千鶴	曇後晴 雨一時雲
16	1999年6月26日～27日	神奈川県横浜市鶴見区	鶴見大学会館 M1ホール	259名	10社	登坂善四郎 (兼任)	雨後雲	雨一時雲 雨一時雲
17	2000年7月22日～23日	北海道札幌市中央区	札幌医科大学 臨床教育研究棟大講堂	159名	10社	平紀子	中山純一	曇後時々雨 雨一時雲
18	2001年6月23日～24日	愛媛県伊予郡砥部町	愛媛県立医療技術短期大学 教育棟北棟	160名	9社	野原千鶴	吉見八重	雨 曇後晴
19	2002年7月6日～7日	静岡県静岡市	静岡県立大学短期大学部 大講義室	250名	14社	田引淳子	小浜進	曇一時晴 曇一時雨
20	2003年7月12日～13日	京都府京都市上京区	京都府立医科大学 附属図書館・合同講義棟	270名	16社	宮本小夜子	山室真知子	雨後雲 雨

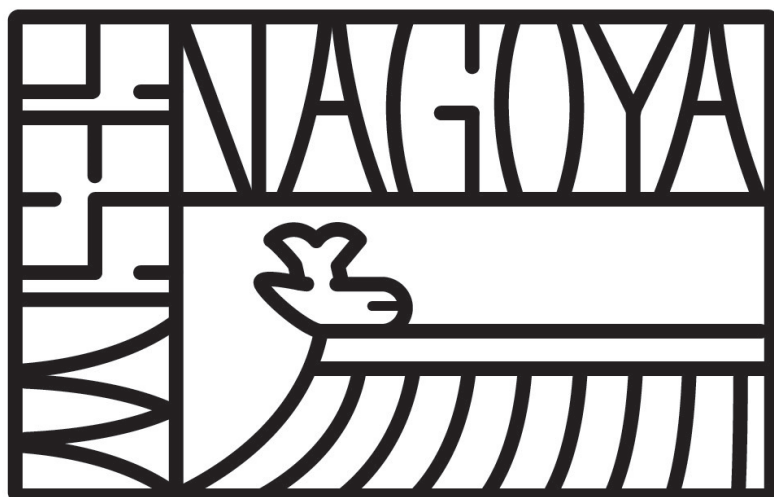


## 医学情報サービスタウン大会の足跡 (2)

### ■ 医学情報サービスタウン大会 (第21回以降)

回	開催年月日	開催地 (当時)	会場施設	参加者	企業	実行委員長	事務局長	天気 (2日分)
21	2004年7月3日～4日	東京都渋谷区	国立礼拝堂記念青少年総合センター棟B1ホール	355名	18社	見玉閣	城山泰彦	晴 快晴
22	2005年7月9日～10日	愛知県愛知郡長久手町	愛知医科大学 本館たちばなホール	266名	18社	坪内政義	市川美智子	雨一時曇 曇
23	2006年7月15日～16日	千葉県千葉市稲毛区	千葉大学 けやき会館大ホール	322名	18社	谷澤滋生	加藤晃一	晴時々曇 曇一時雨
24	2007年8月25日～26日	長崎県長崎市	活水女子大学 4号館 411教室	170名	13社	喜多芳明	森茂樹	雨後曇 晴時々曇
25	2008年7月12日～13日	茨城県つくば市	筑波大学 春日キャンパス講堂	278名	18社	小野寺夏生	岩澤抄子	晴 晴
26	2009年7月4日～5日	東京都港区	北里大学 白金キャンパス薬学部1号館1501講義室	305名	18社	宇野彰男	阿部京子	曇後一時晴 曇
27	2010年8月21日～22日	福島県いわき市	いわき明星大学 AV 大講義室	161名	16社	佐々木克彦	石井美樹	晴 晴
28	2011年7月23日～24日	滋賀県大津市	滋賀県民交流センター・ピエツァ 淡海大会議室	229名	18社	櫻井待子	菅修一	晴 薄曇
29	2012年8月25日～26日	東京都中央区	聖路加看護大学 アリス・C・セントジョンズホール	333名	17社	松本直子	及川颯・佐藤晋巨	晴 晴後一時曇
30	2013年7月6日～7日	沖縄県那覇市	沖縄県立看護大学 大講義室	144名	13社	大山努	古謝久美子	薄曇後晴 晴
31	2014年7月26日～27日	愛知県名古屋千種区	愛知県がんセンター中央病院国際医学交流センター	249名	15社	小嶋智美	市川美智子	晴一時曇 晴時々曇一時雨
32	2015年7月18日～19日	北海道札幌市北区	北海道大学 学術交流会館	189名	19社	松尾博朋	武田理香子	雨時々曇 曇一時雨
33	2016年7月2日～3日	長崎県長崎市	長崎市立図書館 多目的ホール	149名	15社	喜多芳明	下田富美子	曇時々雨 曇後時々雨
34	2017年8月26日～27日	大阪府枚方市	関西医科大学 枚方キャンパス 加多乃講堂	167名	15社	山田久夫	増田徹	曇一時雨 薄曇時々晴
35	2018年8月4日～5日	東京都渋谷区	国立礼拝堂記念青少年総合センター棟B1ホール	300名	18社	大谷裕	阿部潤也	晴一時薄曇 晴
36	2019年8月11日～12日	福岡県福岡市東区	九州大学医学部 百年講堂	156名	18社	首東誠	福島真紀	薄曇時々晴 晴一時薄曇
-	2021年12月4日	MIS2021講演会 (オンライン開催)	MIS37岩手実行委員会	189名	-	見玉閣 (大会責任者)	東京:快晴/盛岡:曇後時々雪一時雨	
37	2022年7月16日～17日	岩手県紫波郡矢巾町	岩手医科大学 (オンライン開催)	183名	11社	川崎かおる	關山悦子	雨時々曇 雨時々曇 (雷に伴)
38	2023年7月1日～2日	高知県高知市	オーテーピア高知図書館			諏訪有香	依光朋子	
39	2024年	愛知県						
40	2025年							

※参加者数は、実行委員会の公式発表数。公式発表を確認できない回は、参加者名簿等により推計 (斜字体表記)。  
 天気は、気象庁「過去の気象データ検索」より、開催地都道府県気象台の天気概況 (昼06:00-18:00) を記載。



**Learning from each other!**

## 第 39 回医学情報サービス 研究 大会@名古屋

2024年7月13日[sat]14日[sun]

名古屋市立大学桜山キャンパス（名古屋市瑞穂区）

医学情報サービス研究大会（MIS）は、1984年に産声を上げました。そこから40年を経た2024年、39回目となる本会（MIS39）を、名古屋で開催する運びとなりました。

「Learning from each other!」は、これからも私たちの気持ちや志を明確に伝える言葉になるだろう。生命科学系の情報専門家として仕事をしていくために、必要な知識とスキルを学びあうだけでなく、大きく変化する社会状況のなかで、専門職としての役割を再定義していく努力が求められる。」\*

MIS創設者の一人である、山崎茂明さんの言葉です。MIS39では、この言葉にある「再定義」をより意識しながら、学び合う場を作り上げてまいります。

2024年の夏、みなさまとお会いできることを楽しみにしております。

小嶋 智美（Independent Librarian, 実行委員長）

柿崎 真沙子（名古屋市立大学大学院医学研究科事務局長）

小嶋 奏（UI/UX デザイナー）

小曾川 真貴（司書・作家）

丹羽 永理奈（ライター）

ふじた まさえ（司書・カーリル）

ほか、実行委員一同

\* 医学情報サービス研究大会ウェブサイト：<http://mis.umin.jp/index.html>

## 大会主催のお願い

現在、大会を実行される主催者を募集しています。医学情報サービス研究大会は、1984年に東京都養育院講堂で開催された第1回大会以来、研究発表、生涯教育、情報交換の広場として、発展してきました。これは、大会会場の提供と実行委員会のご尽力によるものです。大会の場が存在してこそ、私たちは、ともに学びあい、率直に交流し、問題解決の方法を求め、心地よい時間を共有してこられました。大会を開催するには多大なエネルギーが必要です。しかし、実行委員会を組織して、プログラムを企画し、大会を実行することで参加者とは異なる楽しさ・達成感・充実感が得られます。みんなで作る当大会の継続と発展のために、大会主催者としての関与をご検討ください。

当初、参加者は150名前後でしたが、開催地によっては300名を超えることもありました。大会の組織や実行のために必要なノウハウや人材、活動資金など、これまでの大会からの蓄積もあります。もし実行のために支援が必要な場合は、幹事会メンバーや多くの仲間が協力できます。プログラムについては、特別講演や継続教育コース、特定テーマのシンポジウムなど、実行委員会の裁量で企画できます。一般演題はポスター発表を含め、新しい人々の申し込みを得ています。情報サービスの専門職として、企業とのパートナーシップも形成しています。新しい製品やシステムの紹介は、展示ブースだけでなく、プロダクトレビューの場で口演されています。これにより、一般演題やポスター演題は、研究発表や事例提示を中心にして、マーケティングのための商業発表と区別されることとなります。

大会運営のための経費は、主に参加者の大会参加費に依存しています。企業からの展示収入も寄与していますが、主催者側と企業との適正な関係の育成に努めています。懇親会や大会グッズなどは、学びあうだけでなく、楽しめるプログラムとして位置づけています。

これまでの大会運営にあたり、財政支援のともなう他組織からの後援を受けていません。私たちは手作りであることを大切にしており、今後とも自由な個人の力を組織した大会として継続させたいと願っています。

“Learning from each other!”。大会開催についてご相談がございましたら、ぜひ幹事会メンバーへお知らせください。

- \* これまで開催された大会のプログラム、記念写真、開催報告一覧を、医学情報サービス研究大会ウェブサイト (<https://plaza.umin.ac.jp/mis/>) でご覧いただけます。ぜひ一度お越しください。

第 38 回医学情報サービス研究大会抄録集

---

発行日	2023 年 7 月 1 日
発行者	諏訪 有香
編集	第 38 回医学情報サービス研究大会実行委員会
印刷所	有限会社西村謄写堂
表紙デザイン	坂本万恵

---

ISSN 1341-4739

